

Ⅱ 業績集(学会発表、論文、主催シンポジウム)

2010 年業績集

目 次

1. 政策医療企画研究部	89
2. 視覚研究部	115
3. 聴覚・平衡覚研究部	139
4. 人工臓器・機器開発研究部	151
5. 分子細胞生物学研究部	163

政策医療企画研究部

臨床疫学研究室

[論文]

Saito S, Mukohara K, Bito S.

Japanese practicing physicians' relationships with pharmaceutical representatives: a national survey.
PLoS One, 8 (5) : e12193, 2010Aug 13

[総説]

尾藤誠司

MRのための診療エビデンス読解術 第8回 大規模臨床試験について理解する
52-54、ミクス、2010.1

尾藤誠司

MRのための診療エビデンス読解術 第9回 事の大きさ—その理解と伝え方—
60-63、ミクス、2010.2

尾藤誠司

MRのための診療エビデンス読解術 第10回 法律？随筆？—診療ガイドラインの使いかた—
60-63、ミクス、2010.3

尾藤誠司

指導医のために プロフェッショナリズム プロとしての臨床研究 臨床研究指針と実際
1975-1981、日本内科学会雑誌、2010.08

尾藤誠司, 小林美亜, 古場裕司, 岡田千春, 堀口裕正, 三田晃史, 伏見清秀

国立病院機構における医療の質評価の取り組み
「医療の質の評価・公表等推進事業」における臨床評価指標に焦点をあてて
885-889、病院、2010.11

[著書]

尾藤誠司

「医師アタマ」との付き合い方 患者と医者はわかりあえるか
218 ページ、中央公論新社、2010.4

尾藤誠司、本田宏 監修

なぜ、病院が大赤字になり。医師たちは疲れ果ててしまうのか？—医療をつくり変える 33の方法
(日本の医療を守る医療の会)、151-155、合同出版、2010.6

[学会発表]

S Bito, S Kurosawa,

Effect of an Explanation Pattern from Physicians on Understanding about Disease, Anxiety,

Trust to Physicians and Therapeutic Choices among Japanese people; Randomized Allocation Survey.
SGIM 33rd Annual Meeting, Minneapolis, Minnesota, 2010/4/30.

尾藤誠司, 矢野尊啓, 松本純夫

国立病院機構東京医療センター研修管理委員会 東京医療センター後期専修医に対する診療科別
ポートフォリオによる目標設定および研修評価の試み
第 42 回日本医学教育学会, 東京, 2010.07

尾藤誠司, 宮田靖志, 野村英樹, 浅井篤, 朝比奈真由美, 天野隆弘, 板井孝吉郎, 河本慶子,
井上千鹿子, 大生定義, 後藤英司

日本医学教育学会倫理プロフェッショナリズム委員会
提言 卒前・卒後医学教育におけるプロフェッショナリズム教育導入について
第 43 回日本医学教育学会, 東京, 2010.07

尾藤誠司, 津川友介, 高橋理, 大生定義, 伊藤俊之, 千葉勉, 青木昭子, 後藤英司, 向原圭, HeistBrian,
福井次矢

P-MEX の医師憲章に基づく医師のプロフェッショナリズムの評価方法としての有用性の検討
多施設共同研究
第 44 回日本医学教育学会, 東京, 2010.07

[講演]

尾藤誠司

医師という仕事と向き合う —その役割、責任、そしてやりがい—
岡山、2010/1/24

尾藤誠司

医学概論・医療総論 5 ヘルスプロフェッショナリズム総論
札幌、2010/3/30

尾藤誠司

第 3 回高齢者医療研究会 高齢者の終末期医療における倫理的な考え方について 事例検討
福井、2010/3/17

尾藤誠司

総合医が求める中小病院薬剤師像
東京、2010/8/22

尾藤誠司

医療専門職におけるプロフェッショナリズム
第 28 回東北理学療法学会、秋田、2010/11/6

[新聞]

尾藤誠司

研修医が語る忘れられない一言について 週間医学会新聞 2862号 2010.1.11 P.3

医療経営情報研究室

[論文]

Sakamoto T, Iwamura H, Kashio A, Ito K, Kaga K, Suzuki M, Yamasoba T

Comparison of hearing improvement and complications after stapes surgery with and without potassium titanyl phosphate laser for manipulation of the foot plate.

JOURNAL FOR OTO-RHINO-LARYNGOLOGY AND ITS RELATED SPECIALTEIS

(ORL J Oto-Rhino-Lary) 72(1) : 16-21, 2010.2.11

Kasai M, Hayashi C, Iizuka T, Inoshita A, Kamiya K, Okada H, Nakajima Y, Kaga K, Ikeda K

Vestibular function of patients with profound deafness related to *GJB2* mutation.

Acta Otolaryngol 130(9) : 990-995, 2010.4.9

Kondo K, Suzukawa K, Sakamoto T, Watanabe K, Kanaya K, Ushio M, Yamaguchi T, Nibu K, Kaga K, Yamasoba T

Age-related changes in cell dynamics of the postnatal mouse olfactory neuroepithelium:

Cell proliferation, neuronal differentiation, and cell death.

The Journal of Comparative Neurology 518(11) : 1962-1975, 2010.6.1

Sasaki T, Xu A, Ito K, Ishimoto SI, Yamasoba T, Kaga K, Yamauchi N

Histopathological differences in bony destruction of malleus and incus following mastoidectomy.

The Journal of Laryngology & Otology 124(11) : 1162-66, 2010.6.11

Mizutani K, Matsunaga T, Inoue Y, Kaneko H, Yagi H, Namba K, Shimizu S, Kaga K, Ogawa K

Vestibular dysfunction in a Japanese patient with a new mutation in the gene *OPA1*.

Journal of Neurological Science 293 : 23-28, 2010.1

Jin Y, Ushio M, Hayashi A, Takegoshi H, Nakajima Y, Kaga K

Vestibular myogenic potentials of athletes for the Deaf Olympic Games with congenital profound hearing loss.

Acta Otolaryngologica 130(8) : 935-41, 2010.8

Fujimoto C, Ozeki H, Uchiyama Y, Suzukawa K, Mitani A, Fukuhara S, Nishiyama K,

Kurihara Y, Kondo K, Aburatani H, Kaga K, Yamasoba T, Kurihara H

Establishment of mice expressing EGFP in the placode-derived inner ear sensory cell lineage and FACS-Array focused on the regional specificity of the Otocyst.

The Journal of Comparative Neurology 518(23) : 4702-22, 2010.12.1

Qng Zhang, Min Xu, Wei Junrong, Kaga K

Prevalence of otitis media among children in rural and urban areas in Xi'an, China.

小児耳鼻咽喉科 31(3) : 338-44, 2010.12.1

田中 学、浜野晋一郎、安達のどか、浅沼聡、坂田英明、加我君孝
GJB2 遺伝子変異をもつ両側性高度難聴児における乳児期の平衡と運動の発達
小児耳鼻咽喉科 31(1) : 44-48, 2010.2.20

小村 豪、加我君孝、都筑俊寛
上咽頭癌側頭骨進展症例の側頭骨病理
耳喉頭頸 82(4) : 299-302, 2010.4.20

岡本 康秀、松永達雄、泰地秀信、守本倫子、坂田英明、安達のどか、貫野彩子、山口聡子、
仲野敦子、高木明、加我君孝、小川郁
両側前庭水管拡大症の確実例とボーダーライン例の SLC26A4 遺伝子変異および臨床所見の特徴
Audology Japan 53(2) : 164-170, 2010.4.28

中島幸則、桜庭景植、笠井美里、竹腰英樹、金玉蓮、加我君孝
成人の先天性聴覚障害者の平衡機能と視機能の評価
日本臨床スポーツ医学会誌 18(2) : 297-304, 2010.4.30

林 裕史、新正由紀子、朝戸裕貴、加我君孝
先天性外耳道狭窄・閉鎖症に対する外耳道形成術後の側頭骨 HRCT による検討
耳鼻咽喉科臨床 103(10) : 903-7, 2010.10.1

[総説]

Kaga K

Memorial Lecture: Professor Takeshi Kubo's outstanding contribution to cochlear implants and related sciences.

7th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences. Proceedings.
63-65, MEDIMOND, 2010.6.1

Kaga K, Fukushima K, Kanda Y, Yamashita H, Ito J, Ichikawa G

Nationwide survey of pediatric implant in Japan.

7th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences. Proceedings.
69-72, MEDIMOND, 2010.6.1

Kashio A, Ogata E, Akamatsu Y, Ito K, Kaga K, Yamasoba T

Cochlear implantation in children with inner ear malformations.

7th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences. Proceedings.
125-8, MEDIMOND, 2010.6.1

Ogata E, Akamatsu Y, Ito K, Kaga K, Yamasoba T

Vowel perception of Cochlear Implant Users—Listening vs. Lip reading—.

7th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences. Proceedings.

171–3, MEDIMOND, 2010.6.1

Shinjo Y , Masuda T, Kaga K

Vestibular functions and motor developments of congenitally deafblind children.

7th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences. Proceedings.

179–181, MEDIMOND, 2010.6.1

Yamasoba T, Suzuki M, Kaga K, Ogata E, Akamatsu Y

Cochlear implantation in patients with mitochondrial DNA A3243G mutation.

7th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implants and Related Sciences. Proceedings.

189–192, MEDIMOND, 2010.6.1

加我 君孝

小田恂先生の思い出

小田恂東邦大学名誉教授 追悼集 : 37–38、東邦大学医療センター佐倉病院 耳鼻咽喉科

2010.1.27

加我 君孝

新外来棟および新入院棟の完成に貢献された黒川高秀元病院長を悼む

東大病院だより 68 : 3、東京大学医学部附属病院、2010.2.9

加我 君孝

医学歴史ミュージアムの紹介 (14) 齋藤茂吉記念館 (その1)

東大病院だより 68 : 11 - 14、東京大学医学部附属病院、2010.2.9

加我 君孝

天国から届いた万年筆

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 82(2) : 155–7、医学書院、2010.2.20

加我 君孝

はまなすと知床旅情

はまなす季刊 64 : 2 - 3、はまなす医院、2010.2.25

加我 君孝

私の座右の銘『志在千里』

CLINICIAN 57(587) : 0–2、エーザイ、2010.3.1

加我 君孝

今なぜめまいか

CLINICIAN 57(587) : 3 - 4、エーザイ、2010.3.1

加我 君孝

めまいの診断にはまずフレントネル眼鏡を用いて眼振の有無を観察するべきである

CLINICIAN 57(587) : 100-2、エーザイ、2010.3.1

加我 君孝

初期研修の人気ランキング全国第1位の東京医療センターでの研修医を観察して思うこと

CENTER NEWS (17) : 6、東京大学医学教育国際協力研究センター、2010.3.27

加我 君孝

第5回感覚器シンポジウム—ダーウィン生誕200年記念 感覚研究のフロンティアを開催して
東京医療センターだより (42) : 3、東京医療センター、2010.4

加我 君孝

聴覚障害

チャイルドヘルス 13(5) : 25-28、診断と治療社、2010.5.1

加我 君孝

聴覚特別支援学校（ろう学校）

チャイルドヘルス 13(5) : 42-43、診断と治療社、2010.5.1

加我 君孝

（研修会）1. 幼小児の難聴と言語発達

耳鼻咽喉科学校保健の動向 : 24-25、日本耳鼻咽喉科学会、2010.5

加我 君孝

東大医学部17期（明治27年）卒業の加治安正先生の学生ノート41冊寄贈される

東大病院だより 69 : 6 - 7、東京大学医学部附属病院、2010.5.18

加我 君孝

医学歴史ミュージアムの紹介（14-2）

齋藤茂吉 オーストリア・ドイツ留学時代（大正10年～13年）（1921～1924年）（その2）

東大病院だより 69 : 10 - 12、東京大学医学部附属病院、2010.5.18

加我 君孝

東京大学医学教育国際協力研究センター設立10周年にあたって

東京大学医学教育国際協力研究センター10周年記念誌 : 8、

東京大学医学教育国際協力研究センター、2010.5.20

加我 君孝

海外からの客員教授の思い出—臨床実習指導と著書の翻訳出版—
東京大学医学教育国際協力研究センター10周年記念誌：69-71、
東京大学医学教育国際協力研究センター、2010.5.20

加我 君孝

“UCL(University College of London), Center for Auditory Research” の Kemp 教授を訪ねて
Otology Japan 20(2)：135-7、日本耳科学会事務局、2010.5.25

加我 君孝

東京の春の3つの話題
—春の北海道展、上野動物園のレンタルパンダ vs 旭山動物園、富良野塾の最終公演—
はまなす季刊 65：2-3、はまなす医院、2010.5.25

加我 君孝

表紙の顔 勝木保次（聴覚生理学のパイオニア）
学術の動向 15(7)：3、日本学術協力財団、2010.7.1

加我 君孝

重度難聴に対する人工内耳手術と聴覚脳幹インプラント
学術の動向 15(7)：60-64、日本学術協力財団、2010.7.1

加我 君孝

耳鼻咽喉科学のパイオニア 日本編1 岡田和一郎
JOHNS 26(8)：1198-1201、東京医学社、2010.8.1

加我 君孝

(インタビュー) 正しい検査で適切な治療・療育へ
母子保健 (616)：2-4、母子衛生研究会、2010.8.1

加我 君孝

小児難聴外来—目白大学クリニックのインパクト—
目白大学クリニック年報 2008-2009：32-3、目白大学クリニック、2010.8.31

加我 君孝

先天性難聴児の早期発見と早期教育の世界と日本の歴史と発展
岡山県難聴乳幼児を大きく育てる会講演会講演集、岡山かなりや学園、2010.8.25

加我 君孝

三十五年ぶりの夕張への初夏の旅—付・齋藤茂吉の北海道短歌—
はまなす季刊 66：2-3、はまなす医院、2010.8.25

加我 君孝、竹腰英樹

人工内耳

MDIC 標準テキスト 臨床医学 第3版：111、日本医療機器学会 MDIC 認定委員会編、2010.9.1

加我 君孝、竹腰英樹

人工内耳

MDIC 標準テキスト 臨床工学 第3版：116-8、日本医療機器学会 MDIC 認定委員会編、2010.9.1

新正由紀子

子どもが ABR 検査で反応がないと言われたのですが、まったく聞こえないのでしょうか？

JOHNS 26(9)：1252-3、東京医学社、2010.9.1

加我 君孝

医学歴史ミュージアムの紹介 (14) 齋藤茂吉その3. 帰国から晩年まで 1925-1953

東大病院だより 70：10 - 12、東京大学医学部附属病院、2010.9.28

加我 君孝、竹腰英樹、新正由紀子

細菌感染症 細菌性髄膜炎－髄膜炎による聴覚障害および人工内耳手術－

JOHNS 26(11)：1771-9、東京医学社、2010.10.1

加我 君孝

齋藤茂吉のドイツ・オーストリア留学

海外留学は昔も今日も気がつかない自分の潜在能力が発揮される新たな機会となる

耳鼻咽喉科・頭頸部外科 82(11)：789-92、医学書院、2010.10.20

加我 君孝

日本医学教育学会牛場賞を受賞して

CENTER NEWS (18)：6、東京大学医学教育国際協力研究センター、2010.10.29

加我 君孝

北海道の収穫の秋への期待

はまなす季刊 67：2 - 3、はまなす医院、2010.11.25

加我 君孝、新正由紀子、竹腰英樹、内山勉

聞く・話す力の発達

チャイルドヘルス 13(12)：9 - 14、診断と治療社、2010.12.1

加我 君孝

中枢性聴覚障害（聴覚失認・皮質聾）と脳の MRI

ENTONI (122)：1 - 6、全日本病院出版会、2010.12.15

加我 君孝

第3回ヴェルツブルグ—長崎 シーボルト記念シンポジウム
日耳鼻東京都地方部会会報 (64): 64 - 5、日耳鼻東京都地方部会、2010.12.15

[著書]

加我 君孝、中村雅子

2章3-2. 聴覚障害
新老年学第3版 (大内慰義・秋山弘子)、563-78、東大出版会、2010.1.25

加我 君孝

2章14 めまい・平衡障害
新老年学第3版 (大内慰義・秋山弘子)、667-70、東大出版会、2010.1.25

加我 君孝

7.脳血管障害による耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の神経症候
脳卒中症候学 (田川皓一)、542-58、西村書店、2010.3.10

加我 君孝、新正由紀子、内山勉、坂田英明

新生児聴覚スクリーニング
小児科臨床ピクシス 16 新生児医療 (五十嵐隆・渡辺とよ子)、55-59、中山書店、2010.4.28

加我 君孝

Auditory Neuropathy (Auditory Nerve Disease)
よくわかる 聴覚障害 難聴と耳鳴のすべて (小川 郁)、231-240、永井書店、2010.5.15

加我 君孝

天国から届いた万年筆
天国から届いた万円筆 (加我 君孝)、国際医学出版、2010.5.24

加我 君孝

診断と治療 (1) Auditory Neuropathy
—1996年、DPPOAE、蝸電図、ABRの組み合わせた検査で発見された聴覚障害—
第36回日耳鼻夏期講習会テキスト (日本耳鼻咽喉科学会)、19-27、日本耳鼻咽喉科学会、2010.7

加我 君孝、新正由紀子、竹腰英樹、内山勉

先天性難聴児の喃語と音声と言語の発達
小児科臨床ピクシス 19 ここまでわかった小児の発達 (五十嵐隆・久保田雅也)、193-9、中山書店、2010.7.30

[講演]

加我 君孝

幼小児の難聴と言語発達

平成 21 年度日本耳鼻咽喉科学会学校保健研修会、東京、2010.1.31

加我 君孝

後迷路性難聴の検査—中枢聴覚障害症例の映像紹介—

平成 22 年度聴力測定技術講習会、東京、2010.2.19

加我 君孝

子どもの聴こえとことば

小児難聴シンポジウム、東京、2010.2.21

加我 君孝

先天性難聴児の早期発見・早期教育～補聴器から人工内耳まで～

第 3 回埼玉県新生児聴覚スクリーニング連絡協議会、いわつき市、2010.2.26

加我 君孝

ダーウィンのヒトの耳についての考察および中耳・内耳の発生と進化

第 5 回感覚器シンポジウム、東京、2010.3.11

加我 君孝

外傷と難聴・めまい・嗅覚・味覚の障害

(自賠責) 医学研修会、東京、2010.3.12

加我 君孝

先天性難聴児の早期発見と早期教育の世界と日本の歴史

—コミュニケーションと思考の道具としての言語とその医学生物学的な基礎—

岡山県難聴乳幼児を大きく育てる会、岡山、2010.3.13

加我 君孝

両方の耳で聞く～両耳聴と脳のしくみ～

モデルできこえを学ぶ会、東京、2010.3.28

加我 君孝

感覚器センターにおける臨床研究について

東京医療センター新規採用合同オリエンテーション、東京、2010.4.3

加我 君孝

先天性難聴児の早期発見と早期教育の世界と日本の歴史—コミュニケーションと思考の道具としての言語とその医学生物学的な基礎—

東京都東部地域療育センター職員研修会、東京、2010.4.20

加我 君孝

人工感覚器-聴覚のデバイス（人工内耳、脳幹インプラントなど）
東大工学部「量子論/生命論」講義、東京、2010.5.7

加我 君孝

海外留学のインパクト
—精神科医で歌人の斎藤茂吉、39歳からのオーストリア・ドイツ留学（1921.10～1925.1）
東京大学医学教育国際協力研究センター、10周年記念シンポジウム、東京、2010.5.29

加我 君孝

①感覚器センターにおける臨床研究について、
②新生児聴覚スクリーニングの光と影
東京医療保健大学大学院政策医療講義、東京、2010.6.4

加我 君孝

音楽（1）難聴の音楽家①
東京医療保健大学講義 人間と芸術、東京、2010.6.17

加我 君孝

神尾記念病院から始まったわが国の人工内耳と現在
神尾記念病院平成22年度第20回職員研修会、東京、2010.6.17

加我 君孝

東京大学医学部耳鼻咽喉科学教室
颯田琴次教授（1943.7～1947.5）と切替一郎教授（1947.6～1969.3）
颯田医学奨学会6月の集い、東京、2010.6.19

加我 君孝

（特別講演）新生児聴覚スクリーニングの光と影—人工内耳・補聴器・手話—
第79回日耳鼻千葉県地方部会、千葉、2010.6.20

加我 君孝

音楽（2）難聴の音楽家②
東京医療保健大学講義 人間と芸術、東京、2010.6.24

加我 君孝

（ランチョンセミナー）幼小児のめまい・平衡障害と中枢前庭代償
第5回日本小児耳鼻咽喉科学会、札幌、2010.6.27

加我 君孝

音楽(3) 難聴の打楽器奏者 エヴェリン・グレン
東京医療保健大学講義 人間と芸術、東京、2010.7.1

加我 君孝

難聴の画家
東京医療保健大学講義 人間と芸術、東京、2010.7.8

加我 君孝

Auditory Neuropathy
第36回日耳鼻夏期講習会、東京、2010.7.10

加我 君孝

難聴の科学者、盲目・盲聾の音楽家、盲聾の研究者
東京医療保健大学講義 人間と芸術、東京、2010.7.15

加我 君孝

(講義) 小児のめまい
第40回平衡機能検査技術講習会、東京、2010.7.20

加我 君孝

①各分野で活躍する聴覚障害者・視覚障害者—医療関係—、
②ヘレン・ケラーについて Part.1
東京医療保健大学講義 人間と芸術、東京、2010.7.22

加我 君孝

(特別講演) ①新生児聴覚スクリーニングの光と影—人工内耳・補聴器・手話—
②先天性小耳症・外耳道閉鎖症に対する新しい耳介・外耳道形成術
7市耳鼻咽喉科合同学術講演会、東京、2010.7.22

加我 君孝

(学会賞受賞記念講演) 頭頸部癌患者に対する医療面接の臨床実習への導入
第42回日本医学教育学会、東京、2010.7.30

加我 君孝

①障害者のオリンピック、②ヘレン・ケラーについて Part.2
東京医療保健大学講義 人間と芸術、東京、2010.8.5

加我 君孝

昔の人工内耳 (shingle channel)と現在の人工内耳 (multi channel)および脳の可塑性
—成人から幼児へ—

信州大病院人工聴覚学講座開設記念シンポジウム「人工感覚器の将来」、松本、2010.8.7

加我 君孝

両耳聴 Update

日本補聴器販売店協会東京都部会勉強会、東京、2010.9.2

加我 君孝

聴覚・平衡覚のメカニズムと臨床—めまい—

東京医療保健大学大学院病態学特論講義、東京、2010.9.24

加我 君孝

(創設 20 周年記念事業特別講演) 本邦における耳科学の歴史と展開

第 20 回日本耳科学会総会、松山、2010.10.8

加我 君孝

Wartime & Clinical Medicine—戊辰戦争から現代に至る東大医学部の体験—

東京大学医学部 “医の原点シリーズⅩ”、東京、2010.10.28

加我 君孝

成年・老年期のめまいと小児のめまい—可塑性と前庭代償—

南大阪めまいフォーラム、大阪、2010.10.30

加我 君孝

先天性難聴児に対する人工内耳手術について—術前と術後の聴覚と言語の発達—

JST さきがけ脳情報第 6 回領域会議 特別講演、沖縄、2010.11.6

加我 君孝

新生児聴覚スクリーニングの光と影—人工内耳・補聴器・手話—

富山県聴覚障害研究会、富山、2010.11.13

Kaga K

Auditory Neuropathy

International Mini-Synposium Auditory Nerve, Facial Nerve Problems And Novel Middle Ear,

Skull Base Surgery, Tokyo, 2010.11.19

[学会発表]

竹腰英樹

骨導のしくみと骨導補聴器

第 5 回青空の会、第 4 回 TC の会、東京、2010.1.16

加我 君孝

先天性小耳症・先天性両側小耳症・外耳道閉鎖疾患に対する、良い耳介形成・外耳道・鼓膜・鼓室形成術の開発と両耳聴実現のためのチーム医療

平成 21 年度厚生労働省難治性疾患克服研究事業研究奨励分野研究成果発表会、東京、2010.3.12

Tanioka Y, Kaga K

3D Imaging of the Membranous Labyrinth Obtained by HRCT

American Society of Neuroradiology, Boston, 2010.5.15

竹腰英樹、新正由紀子、松永達雄、加我君孝、工藤典代

新生児期に Auditory Neuropathy が疑われ発達とともに異なる検査所見に変化した 2 例

第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会、仙台、2010.5.20

力武正浩、加我君孝

就学年齢で聴覚認知の良好な Pelizaeus-Merzbacher 病の 2 例

第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会、仙台、2010.5.20

新正由紀子、加我君孝

難聴を伴う超出生体重児の聴覚と言語能力の発達について

第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会、仙台、2010.5.20

安達のどか、浅沼聡、坂田英明、加我君孝

先天性の嗅覚障害と高度難聴を伴う CHARGE 症候群の成人女性の 1 例

第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会、仙台、2010.5.20

竹腰英樹、加我君孝

両側小耳症・外耳道閉鎖症児における術前聴覚補償の実情について

第 5 回日本小児耳鼻咽喉科学会、札幌、2010.6.26

Zhant qing, Kimitaka Kaga

Prevalence of otitis media in Chinese Children.

第 5 回日本小児耳鼻咽喉科学会、札幌、2010.6.26

坂田 英明、浅沼聡、安達のどか、前田知佳子、加我君孝

埼玉県の新生児聴覚スクリーニング—10 年目の成果と問題点

第 5 回日本小児耳鼻咽喉科学会、札幌、2010.6.26

松永達雄、加我君孝、竹腰英樹、泰地秀信、守本倫子、仲野敦子、新谷朋子、増田佐和子

日本の小児 Auditory Neuropathy サブタイプと臨床的特徴

第 5 回日本小児耳鼻咽喉科学会、札幌、2010.6.27

加我君孝、竹腰英樹、新正由紀子、中村雅子、増田毅

成人型の Auditory Nerve Disease の同一 3 症例の ABR と蝸電図の初診時と 10 年後の比較
第 5 回 ERA・OAE 研究会、東京、2010.7.4

中村雅子、山崎広子、稲垣真澄、加我君孝

(ポスター) 一酸化炭素中毒により視空間認知障害を認めた小児の 1 症例-漢字の読み書き指導法
第 15 回認知神経科学会、松江、2010.7.17

Kaga K, Maeshima A, Tuzuku T, Kondo K, Morizono T

(ポスター) Temporal bone histopathological features of a worker who received high doses of radiation in criticality accident: A case report.
COLLEGIUM OTO-RHINO-LRYNGOLOGICUM AMICITIAE SACRAM, Budapest, 2010.8.25

新正由紀子、加我君孝

長期の聴力経過を追えた Kabuki maku-up 症候群の 2 症例
第 20 回日本耳科学会総会、松山、2010.10.7

張 青、加我君孝、佐野真幸、竹腰英樹

Arachnoid cysts confined to the internal auditory canal and facial nerve canal.
第 20 回日本耳科学会総会、松山、2010.10.7

竹腰英樹、藤井正人、加我君孝

ヒト側頭骨を用いた超磁歪式骨導振動子と電磁式骨導振動子の出力比較
第 20 回日本耳科学会総会、松山、2010.10.9

角田晃一、藤巻葉子、山嵜達也、加我君孝

加齢による声門閉鎖不全に対する音声自己訓練体操による介入
第 55 回日本音声言語医学会総会、東京、2010.10.14

竹腰英樹、加我君孝、榎本千江子、南修司郎、藤井正人

当科補聴器外来からみた高齢期における聴覚変化の検討
第 55 回日本聴覚医学会総会、奈良、2010.11.11

Ishikawa B, Ishikawa F, Nakamura M, Otuski H, Masubudhi N, Fukami T, Kaga K

P300 ERP of normal young adults
29th International congress of clinical neurophysiology, Kobe, 2010.10.29

Ishikawa B, Ishikawa F, Nakamura Masaki, Otuski H, Masubudhi N, Fukami T,
Nakamura Masako, Kaga K

Absence of P300 and presence of N1 in two hospitalized patients almost 30 years after herpes encephalitis with bilateral loss hippocampus.

29th International congress of clinical neurophysiology, Kobe, 2010.10.29

Tanioka Y, Kaga K

Characteristic abnormal shape of the cochlear duct in obesity.

Global Obesity Summit 2010, Jackson, 2010.11.9-11

南 修司郎、加我君孝、竹腰英樹、松永達雄、徳丸 裕、進藤彰人、松崎佐栄子、田中翔子、角田晃一、藤井正人

アブミ骨固着症を合併した Beckwith-Wiedemann 症候群の 1 例

日耳鼻東京都地方部会第 190 回学術講演会、東京、2010.11.13

増田 毅、竹腰英樹、加我君孝

(ポスター) 高度難聴児の前庭機能について

第 69 回日本めまい平衡医学会総会、京都、2010.11.18

榎本千江子、竹腰英樹、藤井正人、加我君孝

(ポスター) 超高齢期難聴者の語音聴取と異聴傾向についての検討

第 64 回国立病院総合医学会、福岡、2010.11.27

難波一徳、務台英樹、金子寛生、橋本省、加我君孝、藤井正人、松永達雄

新規変異型 KCNQ4 蛋白質の立体構造情報による感音性難聴の究明

第 83 回日本生化学会、神戸、2010.12.7

Perrot X, Kaga K

Linguistic influence on peripheral auditory lateralization of medial olivocochlear efferent system activity: preliminary results in Japanese musicians and non-musicians.

第 32 回関東臨床神経心理研究会、東京、2010.12.18

Zhant qing, Kaga K, Hayashi A

Auditory agnosia due to long-term severe hydrocephalus caused by Spina Bifida.

第 32 回関東臨床神経心理研究会、東京、2010.12.18

[その他]

加我 君孝

(Moderator) Luncheon Seminar

Hearing with a cochlear implant in daily life; outcome of anonymously-answered questions.

第 3 回ヴェルツブルグ-長崎 シーボルト記念シンポジウム、長崎、2010.4.2

加我 君孝

(司会) 宿題報告 I 聴覚中枢伝導路のイメージング解析とその展望

第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会、仙台、2010.5.20

加我 君孝

(司会) シンポジウム 1 突発性難聴のトピックス
第 72 回耳鼻咽喉科臨床学会総会、倉敷、2010.7.2

加我 君孝

(座長) 網膜電図 (ERG) で分かる各種網膜疾患の病態生理
第 5 回 ERA・OAE 研究会、東京、2010.7.5

加我 君孝

(司会) 感覚器[視覚と聴覚]と社会とのつながり
日本学術会議市民公開講座、東京、2010.8.10

加我 君孝

(座談会) ジェファーソン医科大学
日本オスラー協会総会・座談会、東京、2010.9.18

加我 君孝

(座長) シンポジウム 1 言語の生物学的基礎のために
第 55 回日本音声言語医学会総会、東京、2010.10.14

加我 君孝

(座長) 第 12 群「人工内耳 5」
第 55 回日本聴覚医学会総会、奈良、2010.11.11

加我 君孝

(座長) セッション I. 耳鼻科領域
小児領域における耐性菌感染症の新たな治療戦略を考える、東京、2010.11.20

加我 君孝

(司会) アドバンスト・コース I 1. 先進的医療の現状と展望
第 24 回日耳鼻専門医講習会、広島、2010.11.21

Kaga K

(Moderator) Symposium II NHUS
2nd East Asian Symposium on Otolaryngology, Taipei, 2010.11.27

加我 君孝

(座長) 「ACGME と日本の卒後臨床研修トップ指導者との会談：
臨床研修改善のための意見交換と ACGME スタンドアード導入の可能性」
Dr. Thomas J. Nasca と日本の研修指導者の会談、東京、2010.12.9

[新聞]

- ①加我 君孝 生誕百年記念「切替一郎教授の言葉の記録」を編集刊行して
鉄門だより 第 664 号 p5 2010.3.10
- ②加我 君孝 生誕百年記念「切替一郎教授の言葉の記録」を編集刊行して（訂正）
鉄門だより 第 665 号 p9 2010.4.10
- ③加我 君孝 人工聴覚 脳に電極 信号を送る 脳幹インプラント
読売新聞朝刊 p20 2010.4.5
- ④加我 君孝 第 1 回東京医学歴史散歩の会を企画して
鉄門だより 第 670 号 p3 2010.10.10

平成21年は東京大学耳鼻咽喉科学教室の第四代教授であった切替一郎先生(昭8卒)の生誕百年の年に当たる。それ以前の時代がドイツから近代医学を輸入する立場だったのが、切替一郎先生は逆にオリジナルな基礎並

に臨床研究を推進し、海外でも高く評価される業績を数多く残され、同時に多くの人材を育成した。私が平成4年に第七代の教授に就任した時には、切替一郎先生の学問の継承と発展を目指し決意を新たにすることを思い出す。このたび切替一

郎先生の若き日より晩年に至るまでの随筆、評論、総説などを4、5年かけて収集し、生誕百年記念「切替一郎教授の言葉の記録」として刊行した。同時に切替一郎先生が作られた16mm映画の傑作『Structure and Function of Middle Ear』をDVD化した。医局にあったこの16mm映画のフィルムは劣化しているが、市村恵一自治医科大学教授(昭48卒)から提

供を受けたものはニュープリントの美しいものであり、今回はこのプリントをDVD化した。記念式典は平成21年12月6日の同窓会総会で開催された。

生誕百年を記念して刊行された東大医学部教授に関する単行本は少ない。退官記念あるいは亡くなられた後の回想する本は多いが生誕百年を記念するとい

うのは、特別な想いがその門下生あるいはその教室の同窓会にあるからである

生誕百年記念

「切替一郎教授言葉の記録」を編集刊行して

東京大学 耳鼻咽喉科名誉教授

加我君孝先生(昭46卒) 加藤豊次郎、発行 先生・編集者・加藤豊次郎、発行 生誕百年記念準備委員会、東大医学部吉内内科。本人の対談集と門下生の思い出の文章からなる。あとがきは吉利和教授(昭13卒)。昭和39年発行。三浦謹之助(明20卒・1864)は、わが国の神経内科のパ

イオニアである。ドイツ・フランスに自費留学し、パリでは20代終わりにシャルコー教授に師事し、神経内科を専攻した。1895年32歳で東京帝国大学教授になり、1924年の退官までの28年間、内科の教授として活躍した。1902年、呉秀三(明23卒・精神科教授)と共に日本神経学会を創設した。

②「呉建生誕百年」発行者・呉建先生生誕百年記念会、昭和57年発行。呉建(明40卒・1883)の写真と文集そして沖中重雄(昭3卒)を初めとする主に第3内科の門人の追悼録からなる。呉建はドイツ・オーストリアに自費留学し、心臓病態生理学を研究した。42歳で第2内科の教授に就任した。脊髄副交感神経を発見した。絵画の方では現在の日展である帝展に4回入選した。57歳の時に心筋梗塞で急逝した。

③「太田正雄(木下空太郎)」発行者・生誕百年記念会、昭和60年発行。多数の写真と本人の得意とした花の絵、自画像と門下生の思い出の文集からなる。太田正雄(明44卒・1885)は皮膚科の教授で、太田母斑の発見で知られ、詩人・劇作家でもあった。花の絵も多数描き、その文集が岩波書店から発行されている。

私が調べた限り以上の3点しかなく、新たに「切替一郎教授の言葉の記録」を加えることが出来たことは、孫弟子の私として嬉しい限りである。

生誕百年記念

「切替一郎教授の言葉の記録」を編集刊行して

訂正

東京大学 耳鼻咽喉科名誉教授
加我孝孝先生 (昭46卒)

昨年は東京大学耳鼻咽喉科学教室第四代教授の切替一郎先生(昭8卒)の生誕百年に当たる。ドイツから近代医学を輸入する立場だった当時の日本で、切替先生は基礎・臨床研究を推進し、海外でも高く評価される業績を数多く残され、同時に多くの人材を育成した。私が第七代の教授に就任した時、切替先生の学問の継承と発展を目指し決意を新たにすることを思い出す。このたび先生の若き日より晩年に至る随筆・評論、総説などを収集し、生誕百年記念「切替一郎教授の言葉の記録」を刊行、また切替先生が作られた16mm映画「Structure and Function of Middle Ear」をDVD化した。医局にあったファイルの劣化のため、市村恵一自治医科大学教授(昭48卒)からいただいたニュープリントを用いた。記念式典は昨年12月6日の同窓会総会で開催された。

東大医学部教授の生誕百年を記念して刊行された出版物は少ない。退官時や逝去の際は多いが、生誕百年を記念するというは、門下生や同窓会に特別な想いがあるからだろう。私が調べた限り、生誕百年記念の出版物には以下の5点がある。

①「思い出の青山嵐道先生」：編集・熊谷謙二先生、青山先生生誕百年祭準備委員会。昭和34年出版。

青山嵐道(明15卒・1859-1901)は一学年上の

森鷗外(明14卒)と生涯親しい関係にあり、ベルリン大学に5年留学後すぐに教授となった。教授として30年間、医学部長としても16年間活躍した大物だったが、食道癌で58歳の時亡くなった。昭和5年に青山内科同窓会より門下生の思い出が綴られた「青山嵐道」が出版されている。

②「三浦謹之助先生」：編集者・加藤豊次郎、発行者・三浦謹之助先生生誕百年記念準備委員会、東大医学部、吉利内科。本人の対談集と門下生の思い出の文章からなる。あとがきは吉利和教授(昭13卒)昭和39年発行。

三浦謹之助(明20卒・1864-1950)は、日本の神経内科のバイオニアである。ドイツ・フランスに自費留学、パリでシャルコー教授の下、神経内科を学び、1889年32歳で東京帝国大学教授になり、退官までの28年間、内科の教授として活躍した。1889年、呉秀三(明23卒・精神科教授)と共に日本神経学会を創設した。

③「呉建生誕百年」：発行者・呉建先生生誕百年記念会、昭和57年発行。呉建(明40卒・1889-1958)の写真と文集、沖中重雄先生(昭3卒)など第3内科の門人の追悼録からなる。

呉建はドイツ・オーストリアに自費留学し、心臓病態生理学を研究した。42歳で第2内科の教授に就任し、脊髄副交感

神経を発見した。絵画にも長け、帝展(現・日展)に4回入選。心筋梗塞により57歳で急逝した。

(以上の3教授の肖像画は内科講堂にあるが、多くの中から3人の肖像画を捜すことは難しい。)

④「呉秀三先生生誕百年記念誌」：発行者・東京大学医学部精神医学教室内呉秀三先生生誕百年記念会編、昭和40年発行。

呉秀三先生はわが国の精神医学と神経学のバイオニアである。

⑤「太田正雄(木下李太郎)」：発行者・生誕百年記念会、昭和60年発行。多数の写真と花の絵や自画像、門下生の思い出の文集からなる。

太田正雄(明44卒・1881-1955)は皮膚科の教授であった。太田母斑の発見者で、詩人、劇作家でもあった。花の絵も多数描き、その画文集が岩波書店から発行されている。

これら5点に「切替一郎教授の言葉の記録」を加えることが出来たことは、孫弟子の私としては嬉しい限りである。

(編集部注：この記事は3月号の編集で不備があったため再掲いたしました。)



(第3種郵便物認可)

人工聴覚

脳に電極信号送る 脳幹インプラント

BMIの医療応用で、最も成功しているのが人工内耳による聴覚の再獲得だ。先駆者の一人である国立病院機構東京医療センターの加我君孝・感覚器センター長によると、人工内耳手術を受けた患者は世界で約15万人。日本では約5000人以上とされ、多くが「音」を取り戻している。

人工内耳の装置を着けた子ども(加我氏提供)

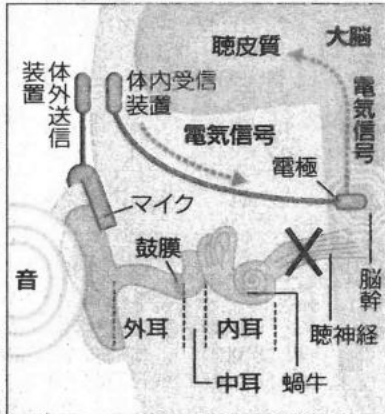


BMI

脳科学の最先端

耳は、外耳、中耳、内耳で構成されている。外耳と中耳の境界には鼓膜があり、内耳はカタツムリの形に似た蝸牛、三半規管などがある前庭からできている。人工内耳は、音のセンサーを担う蝸牛内の細胞が、生まれつき障害されていたり、加齢とともに少なくなったりして、補聴器では聞

●聴覚脳幹インプラントの仕組み



こえない高度難聴者が対象で、保険適用されている。音は耳にかけたマイクで拾い、体外の分析装置を経て、電気信号に置き換えられる。信号は側頭部に埋め込まれた体内受信装置を介して、蝸牛内まで伸びた

電極まで進む。ここでの電気刺激によって、蝸牛から脳幹へと伸びる聴神経が刺激され、大脳の聴皮質で音として認知される。

ただ、両側の聴神経に腫瘍ができる遺伝病「神経線維腫症2型」などで、聞こえなくなるケースでは、人工内耳の効果はない。こうした疾患では、脳幹表面に電極を移植し、直接刺激する「聴覚脳幹イ

ンプラント(ABI)」という方法が、米国などで行われている。

日本では保険適用外だが、加我センター長が前任の東京大病院で、脳外科と協力し、男性患者3人の手術に成功。3人とも大幅に聴力を回復した。3例目の40歳の男性は発症後に結婚したため、術後に初めて妻の声を聞いたという。

加我センター長は「脳に直接、信号を送り込むのは空想だと思っていたが、ABIでは驚くほど良好な結果が出た」と話す。

海外では、脳幹より深部の中脳、大脳を刺激する研究も進む。BMIの医療応用はさらに進化している。

(秦重信)

第1回東京医学歴史散歩の会を企画して

寄稿 東京大学病院耳鼻咽喉科名誉教授 加我君孝先生(昭46卒)

第1回東京医学歴史散歩の史跡は東大を中心とし、歩の会を医学教育国際協力で半径5kmぐらいのところで研究センターの錦織ひろに集中している。地下講師と企画した。学生は鉄の岩本町駅に7月24日(土)の午後集合し、M4が2名、M3が2名、M4が2名、M3が2名で、センター関係4名合計8名であった。幕末から明治にかけての医学池種痘所(安政5年、

1858)跡がある。駅前の交番で「小伝馬牢獄の跡は？」と聞くと示してくれた。その途中にあるはずのお玉ヶ池種痘所の記念碑は通り過ぎてしま、学生が大きな声で「ここにありました」と言うので振り返ってわかった。黒御影石でできた背の低い記念碑である。小生の頭にはうなぎ屋の前という記憶があったが、うなぎ屋は消え中華料理店があった(写真)。近くには千葉周作道場跡の記念碑もある。坂本竜馬はこの道場で剣術の修業をしていた。さらに歩くと小伝馬牢

獄跡と大安楽寺があった。江戸の捕物帳では犯罪人のほとんどはここに入れられていたようである。反対側に小さな十思公園がある。ここに小伝馬牢獄でわずか28歳で処刑された吉田松陰の招魂碑がある。学生には吉田松陰の有名な言葉「一身はたとひ武蔵野の野に朽ちぬとも 留め置かまし大



お玉ヶ池種痘所跡記念碑、1961

和魂」を説明し、この大きな記念碑の石をどこかにだれがどのように運んだかたずねた。この公園の目の前に地下鉄小伝馬町駅があった。次に緒方洪庵のお墓を見学すべく地下鉄の本駒込駅に向かった。そのお墓は高林寺にある。なぜ東京に緒方洪庵のお墓があるのか。緒方洪庵は大阪で適塾を運営していたが、將軍・徳川家茂により江戸にも適塾のような教育施設を作るように命令があり、1862年にしぶぶ妻の八重と一緒に江戸に出た。お玉ヶ池種痘所はわずか1年で焼失し、医学所と改名して、その2代目の頭取が緒方洪庵であった。緒方洪庵はわずか6ヶ月で現在の

御徒町にあった自宅で咯血して亡くなった。「先生が亡くなった」という知らせを聞き最初にやって来たのが福沢諭吉であったという。緒方洪庵のお墓のすぐ隣に森鷗外(明14卒)を讃える記念碑があった。最後の訪問は小石川植物園の北端にある東大総合博物館の小石川分館と

根に風見鶏があり、玄関の欄干は和風、2階のテラスは中国風で和洋折衷であるのが面白い。ここから見る小石川植物園は美しい和風庭園で、昔外国人お雇い教師のベルツの歓送会やアインシュタインの歓迎会などが行われたことを説明した。次回は12月に第2回を計画している。

治験管理室

[総説]

下川 亨明、近藤 直樹、斉藤 真一郎、鈴木 義彦

PMS で薬剤師に求められる役割と体制整備

月刊薬事、1137-1141、じほう、2010/8/1

近藤 直樹、斉藤 真一郎、鈴木 義彦

薬剤師主導の臨床研究を実施するにあたっての倫理指針のポイント

Clinical pharmacist クリニカル・ファーマシスト、466～470、メディカ出版、Sep-10

[著書]

近藤 直樹、古川 裕之、神谷 晃他

CRC のための治験 110 番 Q & A 2010

pp66-67、74-76、78-79、80-81、82-83、225、294-295、じほう、2010/3/25

[学会発表]

下川 亨明、近藤直樹、斉藤真一郎、鈴木義彦、伊藤澄信

医師主導治験の調整事務局を経験して

第 64 回国立病院総合医学会、福岡、2010/11/27

[講演]

山口 正和

治験をとりまく最近の話題

平成 21 年度治験研修（国立病院機構関信地区ブロック）、東京、2010/3/17

薄根 芳彦

受託研究実施施設における契約・請求業務について

平成 21 年度治験研修（国立病院機構関信地区ブロック）、東京、2010/3/17

高木 恵美

CRC 業務の実際

国立病院機構本部 CRC 初任者研修会、東京、2010/6/17

近藤 直樹

「臨床研究の倫理手続きを知ろう !!」

日本病院薬剤師会薬剤師のための臨床研究セミナー、東京、2010/11/19

近藤 直樹

改正倫理指針に対応した体制整備とその実践（事務局の立場から）

日本病院薬剤師会治験事務局セミナー、東京、2010/11/20

近藤 直樹

「臨床研究の倫理手続きを知ろう !!」

日本病院薬剤師会薬剤師ための臨床研究セミナー、大阪、2010/11/27

視覚研究部

眼光学研究室

[論文]

Mizuno Y, Yamada M, Miyake Y, Dry Eye Survey Group of the National Hospital Organization of Japan.

Association between clinical diagnostic tests and health-related quality of life surveys in patients with dry eye syndrome

Jpn J Ophthalmol 54(4) : 259-265, 2010.7

Roberts CB, Hiratsuka Y, Yamada M, Pezzullo ML, Yates K, Takano S, Miyake K, Taylor HR.

The economic cost of visual impairment in Japan.

Arch Ophthalmol 128(6) : 766-771, 2010.6

Yamada M, Hiratsuka Y, Roberts CB, Pezzullo ML, Yates K, Takano S, Miyake K, Taylor HR.

Prevalence and causes of visual impairment in adult Japanese population: present status and future projection.

Ophthalmic Epidemiol. 17(1) : 50-57, 2010.1

Hatou S, Yamada M, Akune Y, Mochizuki H, Shiraishi A, Joko T, Nishida T, Tsubota K.

Role of Insulin in Regulation of Na⁺/K⁺-Dependent ATPase Activity and Pump Function in Corneal Endothelial Cells.

Invest Ophthalmol Vis Sci. 51 : 3935-3942, 2010.9

Hatou S, Fukui M, Yatsui K, Mochizuki H, Akune Y, Yamada M.

Biochemical Analyses of Lipids Deposited on Silicone Hydrogel Lenses.

J Optom. 3 : 164-168, 2010.10

Mochizuki H, Fukui M, Hatou S, Yamada M, Tsubota K.

Evaluation of Ocular Surface Glycocalyx Using Lectin-Conjugated Fluorescein.

Clin Ophthalmol. 4 : 925-930, 2010.10

Nickerson ML, Kostika BN, Brandt W, Fredericks W, Xu KP, Yu FS, Gold B, Chodosh J, Goldberg M, Lu da W, Yamada M, Tervo TM, Grutzmacher R, Croasdale C, Hoeltzenbein M, Sutphin J, Malkowicz SB, Wessjohann L, Kruth HS, Dean M, Weiss JS.

UBIAD1 mutation alters a mitochondrial prenyltransferase to cause Schnyder corneal dystrophy
PLoS One. 5 : e10760, 2010.6

Shigeyasu C, Mizuno Y, Yokoi T, Nishina S, Azuma N, Yamada M

Clinical features of anterior segment dysgenesis associated with congenital corneal opacities.

Cornea in press

谷井啓一、羽藤晋、横井匡、東範行、山田昌和.
角膜輪部デルモイドの屈折異常と弱視に関する検討.
あたらしい眼科 27(8) : 1149-1152, 2010.8

窪野裕久、水野嘉信、重安千花、山田昌和
難治性とされたフリクテン性角結膜炎、カタル性角膜潰瘍の要因.
あたらしい眼科 27(6) : 809-813, 2010.6

[総説]

山田昌和
臨床研究に関する倫理指針の要点.
IOL&RS 24 : 147-150, 2010

渡辺仁、重安千花、山田昌和、木村亜紀子、森山涼.
治療法ディベート 兎眼性角膜炎.
Frontiers in Dry Eye 5 : 50-56, 2010

望月弘嗣、山田昌和
人工涙液、角膜治療薬.
眼科 52 : 165-171, 2010

天野史郎、有田玲子、木下茂、横井則彦、外園千恵、小室青、鈴木智、島崎潤、田聖花、前田直之、
高静花、堀裕一、西田幸二、久保田久世、後藤英樹、山口昌彦、小幡博人、山田昌和、村戸ドール、
小川葉子、松本幸裕、坪田一男、マイボーム腺機能不全ワーキンググループ.
マイボーム腺機能不全の定義と診断基準.
あたらしい眼科 27 : 627-631, 2010

藤池佳子、山田昌和
高齢者のための斜視手術、QOL と効用分析による評価.
眼科手術 23 : 426-429, 2010

重安千花、山田昌和
経口抗癌剤による角膜上皮障害.
日本の眼科 81 : 877-878, 2010

山田昌和
眼科領域の Value-Based Medicine と効用分析.
眼科 52 : 1683-1688, 2010

望月弘嗣、山田昌和
フルオレセイン染色

山田昌和

弱視スクリーニングのエビデンス

あたらしい眼科 27 : 1635-1639, 2010

[著書]

山田昌和

スリットランプではわからない角膜内皮異常、滴状角膜と見分けのつかない角膜内皮異常がある.
眼科検査のグノーティ・セアウトン. (山下英俊、谷原秀信)、87-89、シナジー、2010

山田昌和

起床時に症状があっても診察時には所見がない角膜疾患がある.

眼科検査のグノーティ・セアウトン. (山下英俊、谷原秀信)、90-91、シナジー、2010

[学会発表]

山田昌和

高齢者のための斜視手術、QOL と効用分析による評価.

第 33 回日本眼科手術学会、東京、2010.1

山田昌和、阿久根陽子、望月弘嗣、東城博雅.

シュナイダー角膜ジストロフィの沈着脂質の網羅的解析.

第 34 回角膜カンファランス、仙台、2010.2

重安千花、水野嘉信、横井匡、仁科幸子、東範行、山田昌和.

角膜混濁を伴う前眼部形成不全 139 例 220 眼の臨床像

第 34 回角膜カンファランス、仙台、2010.2

福井正樹、重安千花、水野嘉信、谷井啓一、望月弘嗣、倉持茂、山田昌和.

末梢神経が索状物として眼瞼結膜に露出した 1 例.

第 34 回角膜カンファランス、仙台、2010.2

水谷健人、重安千花、水野嘉信、山田昌和.

難治性ブドウ球菌性眼瞼炎に対する clarithromycin の効果.

第 34 回角膜カンファランス、仙台、2010.2

田中宏樹、重安千花、水野嘉信、山田昌和.

白内障術前患者を対象とした角膜内皮異常例の検討.

第 34 回角膜カンファランス、仙台、2010.2

藤池佳子、勝田智子、水野嘉信、山田昌和.
高齢者の外斜視手術の整容的、機能的効果.
第 66 回日本弱視斜視学会、東京、2010.7

山田昌和、水野嘉信、重安千花、平塚義宗.
メタアナリシスによる 3 歳児眼健診の評価.
第 66 回日本弱視斜視学会、東京、2010.7

田中宏樹、重安千花、谷井啓一、渡辺健、春畑裕二、秋山邦彦、山田昌和
早期手術が奏功した Bacillus による眼内炎の 1 例.
第 47 回日本眼感染症学会、東京、2010.7

福井正樹、阿久根陽子、谷井啓一、重安千花、水野嘉信、望月弘嗣、山田昌和
コンタクトレンズ装用に伴う涙液蛋白・サイトカインの変化.
第 53 回日本コンタクトレンズ学会、東京、2010.7

山田昌和、水野嘉信、重安千花、望月弘嗣
涙液浸透圧測定によるドライアイ検査の意義.
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

水野嘉信、山田昌和、重安千花、三宅養三、NHO 感覚器ネットワークドライアイ研究グループ.
ドライアイの 3 年間前向きコホート多施設共同研究：眼所見、QOL、治療費用の推移.
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

重安千花、水野嘉信、山田昌和、東範行、大橋裕一、東城博雅、西田輝夫.
先天性角膜混濁の全国的症例調査
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

福島梨紗、重安千花、水野嘉信、山田昌和.
改良型 automated lamellar keratoplasty の術後短期成績.
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

山田昌和
SCL 素材とドライアイ. シンポジウム
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

水野嘉信、山田昌和.
ドライアイと QOL. シンポジウム
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

[講演]

山田昌和

難治性角結膜疾患の診断と治療.
三重県眼科講習会、津、2010.1

山田昌和

薬剤性上皮障害.
ドライアイクオリティアップセミナー、東京、2010.3

山田昌和

感染性角膜炎の診断と治療・フルオロキノロンの役割.
中国眼感染症講演会、北京、2010.3

山田昌和

感染性角膜炎の診断と治療・フルオロキノロンの役割.
中国眼感染症講演会、西安、2010.3

山田昌和

角結膜疾患のみかた。教育セミナー。
第 114 回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4

山田昌和

ドライアイの診断のポイント。教育セミナー。
第 114 回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4

山田昌和

弱視斜視の効用分析。教育セミナー。
第 114 回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4

山田昌和

ドライアイからみたムチンの役割。ランチョンセミナー。
第 114 回日本眼科学会総会、名古屋、2010.4

山田昌和

前眼部診療のヒント
世田谷区眼科医会総会、東京、2010.4

山田昌和

BUT 短縮のメカニズムに迫る。
第 4 回箱根ドライアイクラブ、淡路、2010.5

山田昌和

角結膜感染症からこどもの目を守る. ランチョンセミナー.
第 66 回日本弱視斜視学会、東京、2010.7

山田昌和

成人の斜視手術：適応と限界、効用について.
第 26 回岩手眼科臨床懇話会、盛岡、2010.7

山田昌和

涙液とコンタクトレンズ. ランチョンセミナー.
第 53 回日本コンタクトレンズ学会、東京、2010.7

平塚義宗、川崎良、小野浩一、山田昌和、山下英俊.

インストラクションコース、眼科医のための「数字力」養成講座 2.
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

若倉雅登、清澤源弘、山田昌和

インストラクションコース、解決、不定愁訴・不明愁訴 8「原因不明の視力低下をみたら」
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

野村耕治、山田昌和、黒坂大次郎

モーニングクルズス、小児眼科と仲良くなろう.
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

山田昌和

眼科勤務医と眼科志望者の現状. イブニングセミナー
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

山田昌和

コンタクトレンズと涙液. ランチョンセミナー
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

山田昌和

ドライアイのリスクファクター. ランチョンセミナー
第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11

山田昌和

ドライアイ：新しい診断、治療のアプローチ.
第 122 回広島県眼科医会講習会、広島、2010.11

山田昌和

よくみる前眼部疾患のマネージメント

第3回駒の会、東京、2010.11

山田昌和

難治性角結膜疾患の診断と治療

第227回鹿児島眼科集談会、鹿児島、2010.12

患者を生きる 1161

目 レーシック④情報編 術前に十分に検査と説明を受けて

レーシック手術は、レーザーで角膜を削って光の屈折を変化させることで、近視や乱視を矯正する方法だ。

1970年代、旧ソ連で角膜にメスで放射状の切れ込みを入れるRK法が開発され、90年代には、角膜表面をレーザーで削るPRK法が行われるようになったが、いずれも傷の回復が遅く、痛みを伴うなど問題があった。

90年代後半に登場したレーシックは、角膜上皮を薄くはがしてレーザーを照射する。直後から十分な視力が得られ、痛みも少ないという利点があり、現在はこの方法が主流だ。

レーザーの種類、照射法などによって様々な方法があり、手術費用も異なるが、いずれも保険の適用外で、自由診療だ。

スポーツ選手やタレントも体験し、コンタクトレンズや眼鏡の煩わしさから解放されるなど利点も多く、受ける人は増えている。

ただし、角膜の形や厚さによって手術できない例があるほか、強度の近視や乱視は十分に矯正できないことがある。事前に十分に検査をすることが欠かせない。また、あくまでも手術時点での屈折異常を矯正するもので、その後の近視の進行は止められず、効果は変化することもある。

こうした点をふまえ、日本眼科学会は昨年7月、対象を18歳以上とすることなどを明示したレーシックなど屈折矯正手術の新たな指針を出した。日本眼科医会も、ホームページで、手術の利点とともに、術後に起こりうる合併症のリスクなどをあげている(表)。

レーシック手術後に起こるかもしれないこと

- ・夜、光がまぶしく、にじんで見える
 - ・数カ月から1年ほどドライアイになる
 - ・角膜が変化し、矯正効果が低下する
 - ・眼圧を測りにくく、緑内障の検査が難しい
 - ・白内障手術で眼内レンズの度数を決めにくい
- (日本眼科医会の資料から)

情報の窓口

- ・日本眼科医会 <http://www.gankaikai.or.jp/>
 - ・日本眼科学会 <http://www.nichigan.or.jp/index.jsp>
- The Asahi Shimbun

「患者を生きる レーシック」で紹介した田中富士夫さん(33)は1回目の手術後、不正乱視に悩み、特に夜間に光がまぶしくにじんで見えるようになった。

日本眼科医会常任理事の山田昌和・東京医療センター視覚研究部長によると、こうした夜間の視力の低下は、程度が軽いものを含めると、かなりの頻度で見られるという。

昼間は瞳孔が小さく、目には角膜のレーザーで削った部分を通った光が入ってくる。しかし、夜は瞳孔が広がるため、削った部分と削っていない部分を通った光で差ができた。ただ、見えづらさの感じ方は個人差が大きく、あまり感じない人もいるという。

「メリット、デメリットは、年齢、角膜の形や厚さ、近視や乱視の程度などで一人ひとり違う。術前に十分な検査と説明を受けてほしい」と話す。(本多昭彦)

アスパラクラブ 検索 「患者を生きる」はアスパラクラブのウェブサイト「健康club」に掲載しています。

■ご意見・体験は、<メール> iryo-k@asahi.comへ。

福点の始まり 情報編 生活の質向上で社会的損失も削減

厚生労働省の身体障害者見・者実態調査(2008年)によると、視覚に障害がある人は18歳未満が49,000人、18歳以上が31万人。70歳以上がほぼ半数を占めている。対象は身体障害者手帳(1〜6級)を持つ人がほとんどで、等級はいずれも「両目の視力の和」を基準にする。例えば、最も軽い8級は、片方の矯正視力が0.02以下、もう片方が0.06以下で、両方を足して0.2を越える人だ。

これに対し日本眼科学会は、身体障害者の認定に抵抗感を抱く患者がいることや、この基準では実際に目に不自由を感じている人を把握できないことを指摘。世界保健機関(WHO)などが採用している「よい方の目の矯正視力をもとに視覚障害の調査をした。

よい方の目の矯正視力が0.5以下を視覚障害と定義している米国の基準で推計した結果、0.1以下の失明者が18万8千人、0.1以上0.5未満のロービジョンが144万9千人、合わせて約164万人で、さらに今後20年間で200万人に達するとして、視覚障害が個人と社会に与える損失も試算した。目が不自由だと、転倒や骨折のリスクが高まる、うつ状態になりやすい、など様々な問題が生じる。そのために外出を減らしたり仕事をめめたり、生活の質(QOL)の低下の影響は、本人や家族、社会全体に及ぶ。

医療費などの直接コスト(1兆3,382億円)、生産性の低下などの間接コスト(1兆5,000億円)に加え、患者の負担が5兆8,600億円に達して、社会的損失額の総計は約8.8兆円となった。特に高齢と視覚障害が重なる点、周囲とのコミュニケーションがよくなる点、QOLの低下は著しい。

目の相談
電話03-5765-8181
(毎週木曜午後3〜5時)

情報文化センター
電話 06-6441-0039
ファクス 06-6441-1126
Eメール enjoy@lighthouse.or.jp
点字・録音図書の出し出しやネット
配信、便利グッズの紹介・販売など
(日・月・祝除く午前10時〜午後5時)

視覚障害者生活支援情報データベース
http://125.102.96.89/
lightsearch2/Top.aspx

http://jbos.jp/index.html
Eメール office@jbos.jp

目

同会常任理事の山田国利・東京医療センター視覚研究部長は「予防や早期診断、治療、ロービジョンケアによって視覚障害を減らすことは、患者のQOLの改善はもちろん、社会全体のコスト削減にもつながる。高齢化に伴い、視覚障害はますます大きな問題となってきている。目の異常を感じたら、早めに眼科を受診し、検査を受けてほしい」と話す。

各地の図書館には、拡大読書機や点字・録音図書がある。補助員やパソコンの音声読み上げソフトなども次々開発されている。しかし、視力への不安は、技術や医学の進歩だけでは解消されない。便利になった結果、人とのつながりや心のケアが置き去りになっていないか、改めて考えたい。(中塚久美子)

Q からだの質問箱 A

目に異物感「翼状片」の診断



目に砂や石が入ったような異常を感じ、眼科で「翼状片」と診断されました。今は目薬だけで進を防いでいますが、他に良い方法はないでしょうか。(62歳女性)

山田 昌和

国立病院機構

東京医療センター

視覚研究部長

(東京・目黒)

翼状片は、白目の表面を覆っている半透明の膜(結膜)の一部が黒目(角膜)の上に三角形に入り込んでくる病気です。腫瘍ではないので、症状がなければ放置しても問題はありません。ほとんどは片目で、目元の方から生じますが、まれに目尻からや、両目に生じる場合があります。

初期の主な症状は充血や、異物が入ったような感じですが、進行して黒目の中心近くにまで翼状片が伸びると、透明の角膜が濁る角膜混濁や、乱視になり、視力が低下することがあります。

原因は不明ですが、紫外線が関係すると言われており、地域的には九州や沖縄など、職業では農業や漁業など屋外で働く人に多いと言われています。

治療では、初期症状には点眼薬が有効なことがあります。

根治には切除、結膜移植が必要

ますが、根本的に治すには手術が必要です。ただ、翼状片を単純に切除するだけでは再発しやすいので、同時に患者自身の正常な結膜を移植するか、抗がん剤の一種を塗る方法が一般的です。手術時間は局所麻酔で15〜20分程度です。

再発する確率は5%以内に抑えられるようになりました。しかし、再発した場合には眼球とまぶたがくっついて眼球運動に障害が生じたり、物が二つに見えたりといった症状が出ることもあります。再手術のために角膜や、帝王切開された妊婦から採取した羊膜を移植するなど特別な方法が必要になりかねません。ですから初回手術が大切です。

手術方法や再発率などの十分な説明を受けて、手術について考えてください。

生活

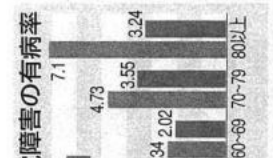
年代別になると、視覚障害は50歳から増え始め、全体の半数が70歳以上、60歳以上は72%に上った。山田部長は

「日本には考えられているより多くの視覚障害者がいるはず」と考えた国立病院機構東京医療センター・感覚器センターの山田昌和・視覚研究部長は昨夏、米国の「良い方の目の矯正視力が0.5未満」の基準を用いて、視覚障害者数を推計した。

推計結果によると国内の視覚障害者は平成19年時点で約164万人。18年の厚生労働省「身体障害者実態調査」の約31万人(身体障害者手帳交付者)を大幅に上回っている。

日本では、視覚障害者の判定は両目の視力の和などで行う。しかし、世界的には良い方の目の視力で判定するのが主流という。

視覚障害より多く



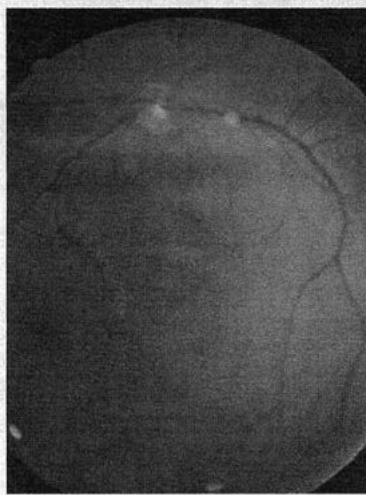
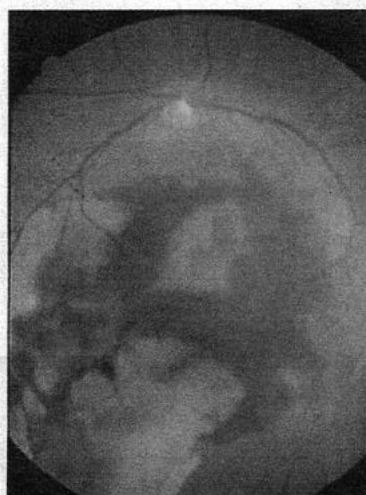
日本の視覚障害者は約31万人とされるが、米国など諸外国と同じ基準で照らし合わせると約164万人に上るとみられることが、専門家の調査で分かった。その半数が70歳以上の高齢者。進む高齢化の中、専門家は「視力検査では現れにくい初期の症状を包括的検診で早期に見つけられることが大切」と警鐘を鳴らす。

(草下健夫)

「老いは目から」……包括的検診の勧め

視覚障害を病気別でみると、緑内障・糖尿病網膜症・変性近視・加齢黄斑変性、白

初期には自覚なし



「視覚障害は高齢者の病気ともいえる」と指摘する。70歳以上で男性が突出しているのは日本特有の現象という。理由は明らかでないが、日本人男性に喫煙者が多いことや遺伝的な要因などの説があるという。

内障の5つで75%を占める。「これらは糖尿病や遺伝的要因もあるが、多くは加齢が原因。中高年のこれらの病気が近年、問題化している」(山田部長) このうち、治療で回復できるのは白内障。ある程度の回復が見込めるのは糖尿病網膜症だが、残りの3つは回復できず、発見後に現状を維持するのが治療の目標という。しかも初期には自覚症状と

40歳以上は5〜10年ごとに

治療をためらった70代男性の加齢黄斑変性の経緯。0.6だった視力(左)は新生血管からの異常な出血で、1年3カ月後には0.03(右)まで低下(国立保健医療科学院 平塚義宗・情報マネジメント室長提供)

受診経験者は3割未満日本 医療用具メーカーのジョンソン・エンド・ジョンソン(東京都千代田区)の調査によると、包括的眼科検診を受診したことのある人は28%にとどまった。調査は一昨年4〜7月、18〜54歳の男女を対象に実施。それによると、受診しない理由は「あまり考えたことがない」「時間がない」「視力が悪くない」などが高い割合を占めた。13カ国・地域と同様の調査では、受診率はブラジル80%、英国71%、米国とイタリア74%など欧米諸国が高かった。一方、日本のほか、中国25%、シンガポール28%、韓国43%とアジアは低かった。

ため、より早期の発見が大切だ。視力検査だけでは見つけられないため、山田部長は視力検査に加え、①屈折検査②細隙灯顕微鏡検査③眼底検査④眼圧検査⑤計測の包括的検診を勧める。これらはほぼすべての眼科で受診可能。費用は検査内容などによるが、保険が適用されると自己負担(3割)は3千円程度で済む。「『自分自身が良い』と

40歳以上は5〜10年ごとに

思っている人は悪化させてしまう。一概に言えないが、40歳以降で5〜10年に1回は眼科専門医を受診しては」山田部長らの研究では、視覚障害者数は20年後には2002万人のピークに達すると推測。包括的検診のコストはかかるが、早期の発見や治療が進めば長期的には医療費を抑制できる。「(健康な視力は)QOL(生活の質)を高めることにもなり、より質の高い高齢社会を迎えることにつながる」と山田部長は提言する。

メガネやコンタクトレンズで矯正しても良い方の目の視力が0.5を下回る「視覚障害」の人は現在、国内で160万人を超す。その約7割が60歳以上で、社会の高齢化とともに今後も急増が見込まれている。国立病院機構東京医療センターの山田昌和・視覚研究部部長は、視力検査に加えて複数の種類の眼科検査を受ける「包括的検査」を定期的に受けるべきだと訴える。

中高年襲う 目の病

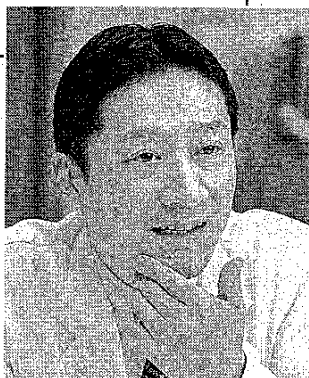
□ 5 □

——包括的な眼科検査の重要性を指摘している。視力検査だけでは不十分なのか。

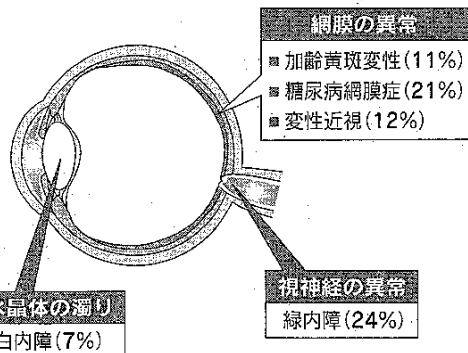
「視覚障害の原因は緑内障、糖尿病網膜症、変性近視、加齢黄斑変性、白内障の五大疾患で全体の4分の3を占める。こうした病気の多くは加齢が原因の慢性疾患で数年、20年程度かけてゆっくり進むため、視力が落ちるころには手遅れになりがち。白内障は進行しても治療で回復できるが、よく緑内障や糖尿病網膜症は早期に発見することで治療や進行を遅らせる処置が大切だ」と訴える。

眼科検診「視力」以外も

国立病院機構東京医療センター
山田・視覚研究部部長に聞く



視覚障害の五大原因と患者数の割合



眼圧・眼底など包括的に
40歳からは定期検査を

眼科検診の種類と見つかる異常

検査の種類	調べる内容	見つかる異常
視力検査	目で見える像のぼやけ	視力低下は見つかるが、原因の診断や早期発見が困難
屈折検査	近視や乱視の具体的な度数	焦点を合わせて視力が戻らなければ、病気の可能性
眼圧検査	空気圧などで眼球の圧力を検査	緑内障や網膜剥離（はくり）など
細隙（げき）灯顕微鏡検査	目に光を当てて組織を観察	主に角膜や水晶体など眼球前部の異常
眼底検査	目の奥の写真を撮影	網膜や視神経の様子から五大疾患の多くが分かる

包括的検査を受診する手順

- ◆ 次のいずれかに該当する場合は受診検討を
 - ・ 40歳以上
 - ・ 糖尿病、高血圧、高度近視の持病がある
 - ・ 緑内障や黄斑変性の家族がいる
 - ・ 喫煙者
- ◆ 受診に当たって
 - ・ ほとんどの眼科やクリニックで受診可能
 - ・ 自治体の公的助成の有無を調べる
 - ・ 人間ドックにかかる際は、眼底検査が含まれるか確認
- ◆ 自覚症状がある場合は
 - ・ 早急に眼科受診を
 - ・ 日本眼科医会の「目の電話相談」（☎03・5765・8181）に問い合わせもできる

「包括的検査では具体的には、①近視や乱視の程度を調べる屈折検査②眼球の圧力を測る眼圧検査③目に光を当てて内部を調べる細隙（げき）灯顕微鏡検査④目の内壁の写真を撮る眼底検査——を受ければフルメニューといえる。とくに眼圧検査では緑内障、細隙灯顕微鏡検査では角膜や水晶体の病気が見つかる可能性が高くなる」

——こうした検査はどのようにすれば受けられるのか。「この検査も、病院やクリニックで受診できる。原則、健康保険が使え、自己負担は2千500～3千円。視覚障害の有病率が50歳代で増加することを考えれば、40歳ごろから5～10年おきに定期検査を受けるのが理想的だ。検査自体は全部受けても1～2時間終わる」

次ページへ続く



「すべてを受診するのが大変な場合は、視力検査に加えて眼底検査を選ぶと効果的。五大疾患のうち白内障以外は網膜や視神経など眼底近くの異常に関連しているからだ。さらに、白内障は水晶体が濁る病気なので、眼底写真でも像の質が落ちるなどとして、影響がとらえやすいと考えられる。人間ドックを受ける際には、眼底写真が含まれるかどうかチェックすることも大切だ」

「東京都内であれば、いくつかの区や市が指定医療機関での受診に対して助成制度がある。例えば杉並区の場合、40～60歳までの間、5年ごとに3000円で受診可能。目黒区のように無料の自治体もある。希望者による申し込みが必要な場合や、特定の年齢に達した人にチケットを送付する場合など受診方法は様々だ」

—— 包括的
検査を社会として推進するにはコストもかかるのではないか。

「視覚障害の人が増えることによる社会的なデメリットは大きい。東京医療センターと順天堂大学、オーストラリアのメルボルン大学による共同調査による

と、日本国内の視覚障害者は2007年には164万人で、日本社会が負担しているコストは約8兆8千億円という試算になった」

「8兆8千億円のうち、医療費や介護保険費など実際にかかる直接コストは約1兆3千億円。雇用率の低下や、ケアに当たる家族の負担など間接コストは約1兆6千億円だった。圧倒的に金額が大きかったのは、視覚障害者が疾患を抱えて生きることによるQOL（生活の質）の損失額で約5兆9千億円。目が不自由なことや失うQOLは、ほかの重大疾患と比べても大きいとされている」

「国内ではこうした定量的調査をした例が少なく、今回の結果をほかの病気と相对比较することはできない。ただ、今後の高齢化で視覚障害者の数は30年に200万人まで増えると考えられる。予防や治療に力を入れることで社会全体の負担を減らすことが大切で、そのためには包括的検査を押し進めるべきだ」

（聞き手は田中深一郎）
＝おわり

視覚・生理学研究室

[論文]

Mizuno Y, Yamada M, Miyake Y

Dry Eye Survey Group of the National Hospital Organization of Japan. Association between clinical diagnostic tests and health-related quality of life surveys in patients with dry eye syndrome

Jpn J Ophthalmol 54(4) : 259-265, 2010.7

Akahori M, Tsunoda K, Miyake Y, Fukuda Y, Ishiura H, Tsuji S, Usui T, Hatase T, Nakamura M, Ohde H, Itabashi T, Okamoto H, Takada Y, Iwata T

Dominant mutations in RP1L1 are responsible for occult macular dystrophy

Am J Hum Genet 87(3) : 424-429, 2010.9

Fujinami K, Akahori M, Fukui M, Tsunoda K, Iwata T, Miyake Y

Stargardt Disease with Preserved Vision: identification of a novel mutation in ATP-binding cassette transporter gene

Acta Ophthalmologica Epub ahead of print, 2010

Kazato Y, Shibata N, Hanazono G, Suzuki W, Tanifuji M, Tsunoda K

Snapshot Imaging of Photoreceptor Bleaching in Macaque and Human Retinas

Jpn J Ophthalmol 54(4) : 349-356, 2010.11

Hanazono G, Ohde H, Shinoda K, Tsunoda K, Tsubota K, Miyake Y

Pattern-reversal visual-evoked potential in patients with occult macular dystrophy

Clinical Ophthalmology 10(4) : 1515-1520, 2010.12

Fujinami K, Tsunoda K, Hanazono G, Shinoda K, Ohde H, Miyake Y

Fundus Autofluorescence in Autosomal Dominant Occult Macular Dystrophy

Arch Ophthalmol in press

Fujinami K, Tsunoda K, Nakamura M, Oguchi Y, Miyake Y

Oguchi's Disease with Unusual Findings Associated with a Heterozygous Mutation in SAG Gene

Arch Ophthalmol in press

Tsunoda K, Fujinami K, Miyake Y

Selective abnormality of the cone outer segment tip line in acute zonal occult outer retinopathy as observed by Fourier domain optical coherence tomography

Arch Ophthalmol in press

[著書]

角田和繁

網膜色素変性の進行例では、なぜまぶしさを訴えるのか？

眼のサイエンス 眼疾患の謎 (根木昭 (神戸大学教授),他)、170、文光堂、2010.6.18

角田和繁

網膜機能のイメージングについて教えてください

あたらしい眼科 27 臨時増刊号 (木下茂)、147-149、メディカル葵出版、2010.12.30

[学会発表]

角田和繁

機能的 OCT - 構造から機能へ - シンポジウム「眼底光干渉断層計 (OCT) 検査の最前線」

第 114 回 日本眼科学会総会、名古屋、2010.4.15

角田和繁

ブリーチングによる杆体および錐体視細胞のイメージング

シンポジウム「Imaging と Function の最前線」

第 114 回 日本眼科学会総会、名古屋、2010.4.15

Suzuki W, Hanazono G, Nanjo T, Ito K, Nishiyama J, Tanifuji M, Tsunoda K

Properties of flash-evoked retinal activity revealed by functional optical coherence tomography (fOCT) in the macaque retina

ARVO annual meeting 2010, Fort Lauderdale, Florida, 2010.5.2

Tsunoda K, Hatase T, Usui T, Fujinami K, Hanazono G, Shinoda K, Abe H, Miyake Y

Clinical features of occult macular dystrophy in a large Japanese family

ARVO annual meeting 2010, Fort Lauderdale, Florida, 2010.5.3

鈴木航

OCT を用いた網膜機能イメージング シンポジウム「眼底画像診断のこれから」

第 27 回日本眼循環学会、大阪、2010.7.30

伊藤晃一、西山潤平、鈴木航、谷藤学、角田和繁、角谷俊文、楠城紹生

機能的 OCT 計測技術 (1) 霊長類網膜による研究

第 46 回日本眼光学学会総会、横浜、2010.9.4

西山潤平、伊藤晃一、鈴木航、谷藤学、角田和繁、角谷俊文、楠城紹生

機能的 OCT 計測技術 (2) ヒト網膜への応用

第 46 回日本眼光学学会総会 眼科画像診断特別セッション、横浜、2010.9.4

Suzuki W, Hanazono G, Nanjo T, Ito K, Nishiyama J, Tanifuji M, Tsunoda K

Imaging of neural activity in different layers of macaque retina evoked by light stimulation using functional optical coherence tomography (fOCT)

第 33 日本神経科学学会、神戸、2010.9.4

角田和繁、畑瀬哲尚、臼井知聡、大出尚郎、中村誠、赤堀正和、岩田岳、三宅養三
優性遺伝型オカルト黄斑ジストロフィー：原因遺伝子(RP1L1)の解明

第 58 回日本臨床視覚電気生理学会、盛岡、2010.10.9

Ozeki N, Shinoda K, Ohde H, Tsunoda K, Hanazono G, Kimura I

Transcorneal electrical stimulation on a patient with Best vitelliform macular dystrophy
International Society for Clinical Electrophysiology of Vision (ISCEV), 48th Symposium,
Perth, 2010.11.7

Hirohisa Kubono, Tsunoda K, Fujinami K, Fukui M, Shinoda K, Hanazono G, Miyake Y

Occult macular dystrophy and retinitis pigmentosa in the same pedigrees

International Society for Clinical Electrophysiology of Vision (ISCEV), 48th Symposium,
Perth, 2010.11.8

Shinoda K, Ohde H, Tsunoda K, Hanazono G, Inomata K, Matsumoto S, Mizota A, Ozeki N,
Kimura I, Miyake Y

Clinical application of the electrical retinal stimulation

International Society for Clinical Electrophysiology of Vision (ISCEV), 48th Symposium,
Perth, 2010.11.8

角田和繁

機能的 OCT による視細胞活動のイメージング 専門別研究会 黄斑研究会
シンポジウム 2 「最先端の画像診断」

第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11.11

角田和繁、畑瀬哲尚、臼井知聡、藤波芳、三宅養三

光干渉断層計で見るオカルト黄斑症の病期進行

第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010.11.12

Suzuki W, Hanazono G, Nanjo T, Ito K, Nishiyama J, Tanifuji M, Tsunoda K

Intrinsic signals in different layers of macaque retina revealed by optical coherence
tomography (OCT)

40th Annual meeting of Society for Neuroscience, San Diego, 2010.11.14

渡辺健、秋山邦彦、角田和繁、野田徹

特発性黄斑上膜における網膜外層形状と視力との関係

第 49 回日本網膜硝子体学会、大阪、2010.11.16

Suzuki W, Nanjo T, Ito K, Nishiyama J, Tanifuji M, Tsunoda K

Functional imaging of different retinal layers using optical coherence tomography

第 16 回武田科学振興財団生命科学シンポジウム、東京、2010.12.1

[講演]

角田和繁

網膜電図（ERG）で分かる各種網膜疾患の病態生理

第 5 回 ERA・OAE 研究会、東京、2010.7.4

角田和繁

フーリエドメイン OCT による網膜外層疾患の診断

第 81 回岡山大学眼科研究会、岡山、2010.12.2

視力低下を招く原因遺伝子特定

▶ Topics一覧

<< 前の記事

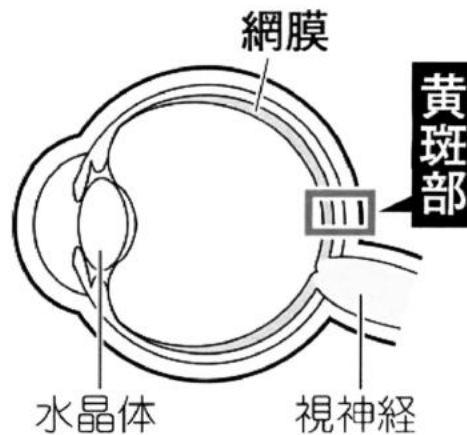
次の記事 >>

愛知医科大グループ、治療法開発に弾み

視力の低下や中心部が見えにくくなる遺伝病「オカルト黄斑ジストロフィー」の原因となる遺伝子を、愛知医科大の三宅養三理事長らのグループが突き止めた。米科学誌アメリカン・ジャーナル・オブ・ヒューマン・ジェネティクス(電子版)に9日、発表した。

オカルトは、遺伝性黄斑変性症の一種で現在、治療法はない。研究成果が将来、治療法の開発につながる可能性がある。

三宅理事長によると、通常の遺伝性黄斑変性症は網膜にある黄斑部に異常が起きる。一方、オカルトは黄斑部が一見すると正常に見えるため、視神経疾患や弱視と誤診される例が大半だった。



オカルトは1989年、三宅理事長が名古屋大医学部の助教授時代に発見。黄斑部の異常が観察できないのに病気が発生する奇妙な現象との意味で名付けた。診断が難しく正確な発症数は不明だが、他の遺伝性黄斑変性症よりも多いとみられる。

東京医療センター視覚生理学研究室の角田和繁室長らがオカルト発症者が多数いる家系を見つけ、同センター分子細胞生物学研究部の岩田岳部長や東京大医学部の辻省次教授らが遺伝子を解析。視細胞に深く関係する遺伝子「R P1L1」が正常でないことが判明した。三宅理事長は「感覚器の遺伝性疾患を日本人が発見する例は少ないうえ、原因遺伝子の特定まですべてを日本の研究グループが手がけた。史上初めての研究例」と話している。

(2010年9月10日)

黄斑症の遺伝子解明

網膜の中心にある黄斑の機能が衰え、視力が低下する遺伝性の目の病気「オカルト黄斑ジストロフィー」の原因遺伝子を国立東京医療センターと東京大学の共同研究チームが解明した。発症原因は不明で、国内の患者数も分かっておらず、今後、治療法の研究や病気の実態解明が進むことが期待される。

この病気は、1989年に三宅養三・名古屋大名誉教授（現愛知医大理事長）が発見。弱視や心因性の視力障害と誤診されることもあり、根本的な治療法もなかった。

チームは、病気が遺伝している四つの家系の患者・家族の遺伝子を解析し、原因遺伝子がある領域を特定。128の遺伝

子から「RP1L1」と呼ばれる遺伝子に変異があることを見つけた。

（ヒューマン・ジェネティクス）

2010年(平成22年)9月30日(木曜日)

夕刊 読 覧 新 聞

◆遺伝性眼病の原因遺伝子発見
視力が徐々に低下する「オカルト黄斑ジストロフィー」の発症にかかわる遺伝子を、国立病院機構東京医療センターなどの研究チ

ームが突きとめた。早期診断、遺伝子治療への応用が期待できるとい

う。
この病気は、網膜中心部（黄斑部）にある細胞の働きが徐々に失

われ、視力が低下する病気。遺伝性の病気で、治療法がない。網膜中心部を調べる特殊な装置がないと診断ができず、弱視などと誤診されるケースも少なくないとい

う。国内の患者数は数千人とみられる。

研究チームは、この病気の患者とその家族計81人の遺伝情報を解析。8番染色体に載る「RP1L

1」という遺伝子に、健常者にはない変異があることを突き止めた。この遺伝子は、網膜細胞の構造決定などに関係するとみられる。

ロービジョン研究室

[論文]

Inoue S, Bissen-Miyajima H, Hirakata A, Ohnuma K, Noda T

Quality of image of grating target placed in model of human eye with corneal aberrations as observed through multifocal intraocular lenses.

Am J Ophthalmol in press (AJO-10-758R1)

Chi ZL, Akahori M, Obazawa M, Minami M, Noda T, Nakaya N, Tomarev S, Kawase K, Yamamoto T, Noda S, Sasaoka M, Shimazaki A, Takada Y, Iwata T

Overexpression of optineurin E50K disrupts Rab8 interaction and leads to a progressive retinal degeneration in mice

Hum. Mol Genet. 19(13) : 2606-15, 2010

[総説]

野田 徹、北田有希

新しい作用機序の新しい薬：ルセンテイスー加齢黄斑変性症

J I M 20 巻 4 号 : 270-273、医学書院、2010

野田 徹、大沼一彦

満足度の高い眼内レンズ度数決定—固定位置による度数決定の違い

臨床眼科 : 64 (11) : 107-112、医学書院、2010

吉田正樹、井田正博、NGUYEN TH、ISTOC A、野田徹

視放線の評価—Fiber Tracking

眼科 臨時増刊号—画像診断—最新の進歩 : 1380 - 1385、金原出版株式会社、2010 年 9 月

吉田正樹、井田正博、NGUYEN Thien Huong、野田徹

MRI の進歩と神経眼科

神経眼科 27 (3) : 308-317、日本神経眼科学会、2010

[学会発表]

Fukui M, Mizutani T, Yatsui K, Kubono H, Kitada Y, Tanaka H, Fukushima R, Ohnuma K, Noda T

Investigation on the modulation transfer functions of the total visual perception, the optical, and the neurophysiologic systems using wavefront analysis.

The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2010 Annual Meeting,

Ft.Lauderdale, Florida, USA, May 2nd, 2010

Yatsui K, Tchikawa T, Katsumi O, Noda T

Progression of Myopia and Visual Loss in Children with Early Gestational Age.

The Association for Research in Vision and Ophthalmology 2010 Annual Meeting.

Ft.Lauderdale,Florida, USA, May 2nd, 2010

Hirohisa Kubono Kazushige Tsunoda,Kaoru Fujinami,Masaki Fukui,Kei Shinoda,Yozo Miyake

Occult macular dystrophy and retinitis pigmentosa in the same pedigrees.

XLVIIIth ISCEV(International Society for Clinical Electrophysiology of Vision),

Fremantle, Western Australia, Nov. 8, 2010

山口剛史、根岸一乃、大沼一彦、野田 徹

正常眼と眼内レンズ眼での周辺視野光学特性の比較

第 114 回日本眼科学会総会、名古屋、2010 年 4 月 16 日

水谷健人、福井正樹、谷井啓一、窪野裕久、北田有紀、福島梨紗、田中宏樹、大沼一彦、野田徹

波面収差測定による推定視力の算出

第 114 回日本眼科学会総会、名古屋、2010 年 4 月 16 日

福井正樹、水谷健人、谷井啓一、窪野裕久、北田有紀、福島梨紗、田中宏樹、大沼一彦、野田徹

波面収差解析による眼球光学特性、神経生理学的伝達特性、全視覚認識特性の関係の検討

第 114 回日本眼科学会総会、名古屋、2010 年 4 月 16 日

吉田正樹、井田正博、BOUCARD Christine、敷島敬悟、海渡信義、NGUYEN ThienHuon g、ISTOC Adrian、STIEVENART Jean Louis、ABANOU Aldelouhab、野田徹、IBA-ZIZEN MarieTherese、CABANIS Emmanuel Alain、常岡寛

側頭葉切除術後症例に対する拡散テンソル画像による Meyer' s loop の評価

第 114 回日本眼科学会総会、名古屋、2010 年 4 月 16 日

窪野裕久、太刀川貴子、勝海修、野田徹

未熟児における、屈折および角膜曲率半径の長期的変化

第 35 回日本小児眼科学会総会、東京、2010 年 7 月 2 日

車田 暁、大沼 一彦、野田 徹

網膜大脳神経系のコントラスト閾値の推定

第 46 回日本眼科学学会総会、横浜、2010 年 9 月 4 日

吉田正樹、井田正博、長尾毅彦、西尾威、柴琢也、常岡寛、野田徹

視放線障害による半盲症例に対する位相画像による検討

第 38 回日本磁気共鳴医学会大会、筑波、2010 年 9 月 30 日

窪野裕久、太刀川貴子、勝海修、野田徹

未熟児における、屈折および角膜曲率半径の長期的変化と強度近視の考察

第 64 回日本臨床眼科学会、神戸、2010 年 11 月 11 日

太刀川貴子 上野里都子 讓原大輔 三田哲子 石田友香 窪野裕久 野田徹 勝海修
未熟における、屈折、眼軸長、角膜曲率半径、水晶体厚の生後1年の変化
第64回日本臨床眼科学会、神戸、2010年11月11日

吉田正樹、BOUCARD CC, 井田正博、原崇彰、西尾威、加藤昌寛、NGUYEN TH, ISTOCA,
柴琢也、ABANO A, IBA-ZIZEN MT、CABANIS EA、西本文俊、中野匡、常岡寛、野田徹
緑内障性視野障害に対する視覚路障害の検討-第2報-
第48回日本神経眼科学会総会、名古屋、2010年11月26-28日

吉田正樹、BOUCARD CC, 井田正博、原崇彰、西尾威、加藤昌寛、NGUYEN TH, ISTOCA,
柴琢也、ABANO A, IBA-ZIZEN MT、CABANIS EA、西本文俊、中野匡、常岡寛、野田徹
視覚刺激に対するコントラスト変化に伴うfMRI皮質応答の検討
第48回日本神経眼科学会総会、名古屋、2010年11月26-28日

渡辺健, 秋山邦彦, 角田和繁, 野田徹
特発性黄斑上膜における網膜外層形状と視力との関係: 黄斑円孔・黄斑上膜
第49回日本網膜硝子体学会総会、大阪、2010年11月27日

[講演]

野田 徹
眼光学. 第34回日本眼科手術学会総会シンポジウム-眼科手術最新知識
第34回日本眼科手術学会総会、東京、2010年1月21日

野田 徹
手術顕微鏡の構造と機能.日本眼科手術学会総会教育セミナー
眼科手術の基本1-手術顕微鏡とその取り扱い
第34回日本眼科手術学会総会、東京、2010年1月20日

野田 徹
手術映像の記録法.日本眼科手術学会総会教育セミナー
眼科手術の基本1-手術顕微鏡とその取り扱い
第34回日本眼科手術学会総会、東京、2010年1月20日

秋山邦彦
メンテナンス.日本眼科手術学会総会教育セミナー
眼科手術の基本1-手術顕微鏡とその取り扱い
第34回日本眼科手術学会総会、東京、2010年1月20日

秋山邦彦
実際の使用法.日本眼科手術学会総会教育セミナー
眼科手術の基本1-手術顕微鏡とその取り扱い

第 34 回日本眼科手術学会総会、東京、2010 年 1 月 20 日

野田 徹

もっと良い裸眼視力、もっと高い患者満足 トーリック眼内レンズ
第 114 回日本眼科学会総会ランチョンセミナー、もっと理想的な白内障手術へ、
名古屋、2010 年 4 月 17 日

野田 徹

波面収差・PSF 解析装置
第 25 回日本眼内レンズ屈折矯正手術学会総会シンポジウム：New Device—検査機器の進歩
東京、2010 年 6 月 27 日

野田 徹

波面収差解析
第 64 回日本臨床眼科学会総会教育セミナー：臨床に役立つ眼光学
第 64 回日本臨床眼科学会総会、神戸、2010 年 11 月 11 日

野田 徹

教えます！なぜ IOL マスターが必要か？
第 64 回日本臨床眼科学会総会ランチョンセミナー、神戸、2010 年 11 月 11 日

野田 徹

眼内の観察・治療装置—眼底カメラと手術顕微鏡
2010 眼光学チュートリアルセミナー、東京、2010 年 7 月 25 日

窪野裕久、秋山邦彦、渡辺健、北田有紀、福島梨紗、田中宏樹、野田徹

硝子体手術患者の入院日数についての検討
世田谷区医師会医学会、東京、2010 年 12 月 10 日

野田 徹

トラベクトミー—特殊症例への工夫
第 30 回城南眼科集談会、東京、2010 年 12 月 2 日

秋山邦彦

網膜疾患 OCT 画像—OCT が役に立つ症例
第 3 回駒の会、東京、2010 年 11 月 18 日

野田 徹

白内障手術—最近の手術
第 3 回駒の会、東京、2010 年 11 月 18 日

野田 徹

眼科疾患の病態と治療

国立病院機構東京医療センター感覚器看護公開講座、東京、2011年1月15日

藤池佳子

ロービジョンと患者の支援

国立病院機構東京医療センター感覚器看護公開講座、東京、2011年1月15日

聴覚・平衡覚研究部

聴覚・平衡覚研究部

[論文]

Mizutari K, Matsunaga T, Inoue Y, Kaneko H, Yagi H, Namba K, Shimizu S, Kaga K, Ogawa K
Vestibular dysfunction in a Japanese patient with a mutation of the gene *OPA1*.
J Neurol Sci 293 : 23–28, 2010.6

Fujinami Y, Mutai H, Kamiya K, Mizutari K, Fujii M, Matsunaga T
CHOP expression precedes degeneration of fibrocytes in a rat model of acute cochlear
mitochondrial dysfunction
Neurochem Int 56(3) : 487–494, 2010.2

Mizutari K, Fujioka M, Nakagawa S, Fujii M, Ogawa K, Matsunaga T
Balance dysfunction resulting from acute inner ear energy failure is caused primarily by
vestibular hair cell damage.
J Neurosci Res 88(6) : 1262–1272, 2010.5

Sun G, Fujii M, Sonoda A, Tokumaru Y, Matsunaga T, Habu N
Identification of stem-like cells in head and neck cancer cell lines.
Anticancer Research 30 : 2005–2010, 2010.6

岡本康秀、松永達雄、泰地秀信、守本倫子、坂田英明、安達のどか、貫野彩子、山口聡子、
仲野敦子、高木明、加我 君孝、小川郁
前庭水管拡大症の確実例とボーダーライン例の *SLC26A4* 遺伝子変異および臨床所見の特徴
Audiology Japan 53(2) : 164–170, 2010.4

泰地秀信、守本倫子、松永達雄
Auditory neuropathy spectrum disorder の乳幼児期における ASSR 閾値
Audiology Japan 53(1) : 76–83, 2010.2

Fujinami Y, Mutai H, Kamiya K, Mizutari K, Fujii M, Matsunaga T
CHOP expression precedes degeneration of fibrocytes in a rat model of acute cochlear
mitochondrial dysfunction
Neurochem Int 56(3) : 487–494, 2010

Mizutari K, Matsunaga T, Inoue Y, Kaneko H, Yagi H, Namba K, Shimizu S, Kaga K, Ogawa K
Vestibular dysfunction in a Japanese patient with a mutation of the gene *OPA1*.
J Neurol Sci 293 : 23–28, 2010

神崎晶, 増田正次, 南修司郎
ストレスと突発性難聴

ENTONI 121 : 13-19, 2010.11

川崎泰士, 行木一郎太, 塚本浩, 笠原正男, 行木英生, 小澤宏之, 南修司郎, 松延毅
血管塞栓術が鼻内視鏡下摘出に有用であった鼻副鼻腔血管外皮腫の1症例
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 82(4) : 281-285, 2010.04

渡部高久, 鈴木隆史, 南修司郎, 和多田有紀子, 藤岡正人, 神崎晶, 齋藤秀行, 井上泰宏, 向井万起男,
小川郁
症例をどうみるか 中耳カルチノイド腫瘍と中耳腺腫
JOHNS 26(2) : 269-273, 2010.02

Minami SB, Shinden S, Okamoto Y, Watada Y, Watabe T, Oishi N, Kanzaki S, Saito H, Inoue Y, Ogawa K.
Repetitive transcranial magnetic stimulation (rTMS) for treatment of chronic tinnitus.
Auris Nasus Larynx Epub ahead of print, 2010 Oct 22

今野恵理、服部典子、落合博子
軟口蓋瘻孔を生じた中咽頭結核の1例
日本形成外科学会誌 30(6) : 289-291、2010.1.

内川裕美子、玉田一敬、落合博子、緒方寿夫、中島龍夫、貴志和生
リン酸カルシウムペーストの硬化度は骨との接合性に影響を及ぼしうるか？
—Onlay Modelにおける組織学的検討—
日本頭蓋顎顔面外科学会誌 26(4) : 343-349、2010.12.

徳丸 裕、藤井正人、羽生 昇、矢島陽子
中咽頭癌におけるヒト乳頭腫ウイルス (HPV) の関与
耳鼻と臨床 56 巻(補冊1号) : S21-S24、2010年11月

藤井正人
唾液腺悪性腫瘍に対する化学療法
JOHNS 26 : 193-197、2010.2

Fujii M, Tomita k, Nishijima W, Tsukuda M, Hasegawa Y, Ishitoya J, Yamane H, Homma A, Tomita T
Phase I/II study of S-1 plus cisplatin combination chemotherapy in patients with
advanced/recurrent head and neck cancer
Jpn J Clin Oncol 40(3) : 214-221, 2010.4

Fukada J, Shigematsu N, Takeda A, Ohashi T, Tomita T, Shiotani A, Kunieda E, Kawaguchi O, Fujii M,
Kubo A.
Weekly Low-Dose Docetaxel-Based Chemoradiotherapy for Locally Advanced Oropharyngeal
or Hypopharyngeal Carcinoma: A Retrospective, Single-Institution Study.

Int J Radiat Oncol Biol Phys 76(2) : 417-424, 2010.2

藤井正人

初診外来における初期診療 咽頭痛
診断と治療 98 : 145-149、2010.3

羽生 昇、徳丸 裕 進藤彰人 松永達雄 藤井正人

頸部に発生した extra-abdominal desmoid tumor の一例
頭頸部外科 20(2) : 173-177、2010.4

藤井正人

特集 頭頸部腫瘍診察における論点-下咽頭喉頭頸部編-下咽頭癌 T1N2-3 の治療は？
化学放射線治療の立場から
JOHNS 26 : 1605-1608、2010.1

羽生 昇 徳丸 裕 竹腰英樹 矢島陽子 近藤秀一 藤井正人

頭頸部癌化学放射線療法中の bacterial translocation 例
耳鼻咽喉科臨床 103 : 581-585、2010.6.

藤井正人

頭頸部がんに対する補助化学療法 1) 頭頸部がんに対する術後補助化学療法
腫瘍内科 5 : 359-364、2010.4

川原克信 藤井正人

食道癌の化学療法
日本気管食道科学会会報 61 : 194-202、2010.4

藤井正人

他科の医師の期待 : 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 耳鼻咽喉科医からみた化学放射線療法
JASTRO NEWSLETTER 95 : 14-15、2010.4

Tahara M, Minami H, Hasegawa Y, Tomita K, Watanabe A, Nibu K, Fujii M,

Onozawa Y, Kurono Y, Sagae D, Seriu T, Tsukuda M

Weekly paclitaxel in patients with recurrent or metastatic head and neck cancer
Cancer Chemother Pharmacol : Published Online, 2010.12

[総説]

松永達雄

若い頃から難聴で補聴器を使っていますが、子どもに遺伝しますか？
JOHNS26 巻9号 : 1260-1261、2010.9

進藤彰人、松永達雄

BPPV 以外で、メニエール病、前庭神経炎、突発性難聴などの回転性めまいを生じる耳鼻科的疾患について、ジェネラリストが知っておくべきこと

JIM 2010 年 12 月号 : 932-935、2010.12

松永達雄 (監修)

平衡感覚を取り戻す人工内耳

日経サイエンス 2010 年 8 月号(第 40 巻第 8 号) : 80-84、日経サイエンス社、2010.8

松永達雄

遺伝性感音難聴の研究

オーディオインフォ 補聴器専門誌 : 17-19、2010 年 10 月

[著書]

松永達雄

遺伝性難聴と遺伝カウンセリング

よくわかる聴覚障害—難聴と耳鳴のすべて—(小川郁)、344-348、永井書店、2010.5

松永達雄 監修

小児難聴シンポジウム「言葉の発達が難しい小児難聴と向き合う」

1-43、2010.2

徳丸 裕

口腔・中咽頭がん ヒト乳頭腫ウイルス (HPV) の EBM とは

EBM 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療、492-494、中外医学社、2010.5.25

藤井正人

治療総論 1.頭頸部がんに対する化学放射線療法と導入化学療法の EBM とは?

EBM 耳鼻咽喉科・頭頸部外科の治療 (池田勝久他)、428-433、中外医学社、2010.5.25

[学会発表]

竹腰英樹、新正由紀子、松永達雄、加我君孝、工藤典代

新生児期に Auditory Neuropathy が疑われ発達とともに異なる検査所見に変化した 2 例

第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会、仙台市、2010 年 5 月 20-22 日

山下大介、松永達雄、藤田岳、長谷川信吾、丹生健一

音響外傷性難聴に対する SA4503 の内耳防御機能

第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会、仙台市、2010 年 5 月 20-22 日

徳丸裕、藤井正人、羽生昇、矢島陽子、進藤彰人、松崎佐栄子、竹腰英樹、松永達雄、角田晃一、加我君孝

頭頸部癌における p53 disruptive mutation の検出とその意義

第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会、仙台市、2010 年 5 月 20-22 日

松永達雄、加我君孝、竹腰英樹、泰地秀信、守本倫子、仲野敦子、新谷朋子、増田佐和子
日本の小児 Auditory Neuropathy サブタイプと臨床的特徴

第 5 回日本小児耳鼻咽喉科学会総会・学術講演会、札幌市、2010 年 6 月 26-27 日

難波一徳、務台英樹、橋本省、加我君孝、藤井正人、松永達雄

新規変異型 KCNQ4 蛋白質の立体構造情報による感音性難聴の検証

第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

守本倫子、松永達雄、本村朋子、泰地秀信

BOR 症候群における聴力低下と前庭水管拡大との関連

第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

仲野敦子、有本友季子、大熊雄介、松永達雄、工藤典代

Auditory Neuropathy が疑われ難聴遺伝子解析を行った症例の検討

第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

松永達雄、加我君孝、務台英樹、泰地秀信、守本倫子、新正由紀子、武腰英樹、仲野敦子、
新谷朋子、難波一徳、増田佐和子、新田清一、松永達雄

日本人小児 Auditory Neuropathy の遺伝的要因の解明

第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

岡本康秀、松永達雄、泰地秀信、守本倫子、貫野彩子、山口聡子、仲野敦子、高木明、増田佐和子、
加我君孝、小川郁

SLC26A4 遺伝子変異陽性症例の側頭骨 CT における前庭水管の形態

第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

大熊雄介、仲野敦子、有本有紀子、松永達雄、工藤典代

乳児期に難聴が進行したと思われる GJB2 遺伝子変異症例の検討

第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

務台英樹、藤井正人、松永達雄

聴覚発達・老化と関連する DNA メチル化修飾とメチル化酵素 Dnmt3a/3b の発現

第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

小淵千絵、原島恒夫、木暮由季、松永達雄

学童期の Auditory Neuropathy Spectrum Disorder (ANS) 症例のコミュニケーション発達に
関する一考察

第 55 回日本音声言語医学会総会・学術講演会、東京都、2010 年 10 月 14-15 日

松永達雄、國島伸治、務台英樹、難波一徳、加我君孝

日本人小児 Auditory Neuropathy における OTOF 遺伝子解析と治療法選択
第 55 回日本人類遺伝学会、さいたま市、2010 年 10 月 27-30 日

大原卓哉、本村朋子、守本倫子、泰地秀信、松永達雄

OTOF 遺伝子変異を認める Auditory Neuropathy Spectrum Disorder の乳幼児例における
人工内耳装用効果
第 55 回日本聴覚医学会総会・学術講演会、奈良市、2010 年 11 月 11-12 日

増田佐和子、臼井智子、鶴岡弘美、石川和代、松永達雄

NOG 遺伝子変異による近位指節癒合症を伴う伝音性難聴を呈した SYM1 の 1 家系
第 55 回日本聴覚医学会総会・学術講演会、奈良市、2010 年 11 月 11-12 日

仲野敦子、有本友季子、大熊雄介、松永達雄、工藤典代

Auditory Neuropathy が疑われた小児難聴症例の検討
第 55 回日本聴覚医学会総会・学術講演会、奈良市、2010 年 11 月 11-12 日

難波一徳、務台英樹、橋本省、加我君孝、藤井正人、松永達雄

新規変異型 KCNQ4 蛋白質の立体構造情報による感音性難聴の検証
第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

松永達雄、加我君孝、務台英樹、泰地秀信、守本倫子、新正由紀子、武腰英樹、仲野敦子、
新谷朋子、難波一徳、増田佐和子、新田清一、松永達雄

日本人小児 Auditory Neuropathy の遺伝的要因の解明
第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

務台英樹、藤井正人、松永達雄

聴覚発達・老化と関連する DNA メチル化修飾とメチル化酵素 Dnmt3a/3b の発現
第 20 回日本耳科学会総会・学術講演会、松山市、2010 年 10 月 7-9 日

務台英樹、藤井正人、松永達雄

発達中および成熟個体聴覚上皮における DNA メチル化酵素 Dnmt3a/3b の発現
日本エピジェネティクス研究会第 4 回大会、米子市、2010 年 5 月 28-29 日

松永達雄、國島伸治、務台英樹、難波一徳、加我君孝

日本人小児 Auditory Neuropathy における OTOF 遺伝子解析と治療選択への活用
日本人類遺伝学会第 55 回大会、さいたま市、2010 年 10 月 27-30 日

難波一徳、務台英樹、金子寛生、橋本省、加我君孝、藤井正人、松永達雄

新規変異型 KCNQ4 蛋白質の立体構造情報による感音性難聴の究明
(Investigation of sensorineural deafness caused by KCNQ4 novel mutation by molecular modeling method)

第 33 回日本分子生物学会年会 第 83 回日本生化学会大会合同大会 BMB2010、神戸市
2010 年 12 月 7-10 日

徳丸 裕、羽生 昇、矢島陽子、松永達雄、角田晃一、加我君孝、藤井正人
耳下腺腫瘍および副咽頭間隙腫瘍手術に対する顔面神経モニタリング用剥離鉗子の使用経験
第 20 回日本頭頸部外科学会、東京、2010/01/28-29

徳丸 裕
中咽頭癌におけるヒト乳頭腫ウイルス (HPV) の関与
第 15 回頭頸部癌化学療法研究会、博多、2010/3/6

Yutaka Tokumaru, Masato Fujii, Noboru Habu, Yoko Yajima
Human papillomavirus infection correlated inversely with p53 mutation and p16 methylation
in head and neck squamous cell carcinoma
American Head and Neck Society 2010 annual meeting, Las Vegas, USA, 2010/04/28-29

徳丸 裕、藤井正人、羽生 昇、矢島陽子、進藤彰人、松崎佐栄子、松永達雄、角田晃一、
加我君孝
頭頸部癌における p 53 disruptive mutation の検出とその意義
第 111 回日本耳鼻咽喉科学会総会、仙台市、2010/05/20-22

徳丸 裕、
HPV 研究 中間報告
第 4 回頭頸部癌基礎研究会、東京、2010/6/9

徳丸 裕、藤井正人、羽生 昇、矢島陽子、進藤彰人、松崎佐栄子、松永達雄、角田晃一、
加我君孝
頭頸部癌におけるハイリスク型 HPV 検出のためのブラッシング検査の有用性
第 34 回日本頭頸部癌学会、東京、2010/6/11

徳丸 裕、藤井正人、羽生昇、矢島陽子、進藤彰人、加我君孝
耳下腺に発生した上皮筋上皮癌症例
第 72 回耳鼻咽喉科臨床学会、倉敷市、2010/7/2

徳丸 裕、藤井正人
uman papillomavirus infection correlated inversely with p53 mutation and p16 methylation
in head and neck squamous cell carcinoma
第 69 回日本癌学会学術総会、大阪市、2010/9/24

Yutaka Tokumaru, Masato Fujii, Akihito Shindo, Saeko Matsuzaki, Tatsuo Matsunaga,
Koichi Tsunoda, Kimitaka Kaga

Brushing examinations for HPV detection in HNSCC
American Academy of Otolaryngology-Head and Neck Surgery Foundation Annual Meeting,
Boston, USA, 2010/09/26-29

徳丸 裕、藤井正人、羽生 昇、矢島陽子

当咽喉癌における治療効果予測バイオマーカーとしてのHPV感染の有用性
第48回日本癌治療学会、京都市、2010/10/28

竹腰英樹、加茂君孝、榎本千江子、南修司郎、藤井正人

当科補聴器外来からみた高齢期における聴覚変化の検討
日本聴覚医学会、奈良県奈良市、2010.11.11-12

岡本康秀、神崎晶、井上泰宏、齋藤秀行、南修司郎、渡部高久、貫野彩子、久保田江里、中市健志、
原田耕太、森本隆司、小川郁

臨床における周波数選択性の有効性 加齢性難聴での検討
日本聴覚医学会、奈良県奈良市、2010.11.11-12

渡部高久、神崎晶、井上泰宏、齋藤秀行、新田清一、南修司郎、藤岡正人、渡邊麗子、和佐野浩一郎、
小川郁

Sound generator を用いた TRT の予後因子の検討
日本聴覚医学会、奈良県奈良市、2010.11.11-12

南修司郎、神崎晶、渡部高久、新田清一、岡本康秀、齋藤秀行、井上泰宏、小川郁

反復経頭蓋磁気刺激(rTMS)による聴覚伝導路 Immediate early gene(c-fos)発現の検討
日本耳科学会、愛媛県松山市、2010.10.7-9

南修司郎、神崎晶、井上泰宏、齋藤秀行、富田俊樹、渡部高久、小川郁

当科における聴器癌症例の検討
日本耳鼻咽喉科学会、宮城県仙台市、2010.5.20-22

Shujiro Minami Sho Kanzaki, Yasuhiro Inoue, Hideyuki Saito, Toshiki Tomita,

Takahisa Watabe, Masato Fujioka, Reiko Watanabe, Kaoru Ogawa

Cancer of temporal bone: reported on 30 patients
JOINT MEETING - IV, Consensus in auditory implants & V EAONO INSTRUCTIONAL
WORKSHOP, Parma, Italy, 2010.6.16-19

Sho Kanzaki, Takuji Koike, Takashi Suzuki, Kunio Mizutari, Yasuhide Okamoto, Naoki Oishi,
Shujiro Minami, Takahisa Watabe, Hideyuki Saito, Yasuhiro Inoue, Yu Yuasa, Ryo Yuasa, Hiroshi Wada,
Toshimitsu Kobayashi, Kaoru Ogawa

Significant correlation between audiogram and perioperative testing ossicular mobility in
otosclerosis patients

JOINT MEETING – IV Consensus in auditory implants & V EAONO INSTRUCTIONAL
WORKSHOP, Parma, Italy, 2010.6.16–19

Masato Fujioka Hideyuki Saito, Yasuhiro Inoue, Sho Kanzaki, Shujiro Minami, Takahisa Watabe, Reiko
Watanabe, Yukiko Watada and Kaoru Ogawa

Reconstruction of external auditory canal in patient with lateral temporal bone resection: a
case series of four patients

JOINT MEETING – IV Consensus in auditory implants & V EAONO INSTRUCTIONAL
WORKSHOP, Parma, Italy, 2010.6.16–19

Takahisa Watabe Yasuhiro Inoue, Hideyuki Saito, Sho Kanzaki, Shujiro Minami,
Masato Fujioka, Reiko Watanabe, Yukiko Yahata–Watada and Kaoru Ogawa

The change in hearing level and growth rate of acoustic neuromas in wait and scan policy

JOINT MEETING – IV Consensus in auditory implants & V EAONO INSTRUCTIONAL
WORKSHOP, Parma, Italy, 2010.6.16–19

Minami S, Shinden S, Okamoto Y, Watabe T, Kanzaki S, Saito H, Inoue Y, Ogawa K

Repetitive Transcranial Magnetic Stimulation (rTMS) for Treatment of Chronic Tinnitus

Sixth International Symposium on Meniere's Disease and Inner Ear Disorders, Kyoto, Japan
2010.11.14–17

内川裕美子、落合博子、今野恵理、須田俊一、大鶴洋、羽生昇、藤井正人

下顎骨正中離断後骨髄炎に対し創外固定を行った一症例

第 20 回慶應義塾大学形成外科同門会学術集会、東京、2010.1.30.

須田俊一、内川裕美子、今野恵理、落合博子、南雲正士、後藤哲哉、岡本雅彦、三木隆久

冠動脈バイパスグラフト術後に胸壁潰瘍を生じた 2 症例

第 20 回慶應義塾大学形成外科同門会学術集会、東京、2010.1.30.

落合博子、内川裕美子、今野恵理、須田俊一、大鶴洋、羽生昇、藤井正人

下顎骨正中離断後の骨髄炎の治療経験

第 53 回日本形成外科学会総会・学術集会、金沢、2010.4.7.

内川裕美子、玉田一敬、落合博子、緒方寿夫、中島龍夫

リン酸カルシウムペーストの硬化度は骨接合性に影響を及ぼすか？

～オンレイモデルにおける組織学的検討～

第 53 回日本形成外科学会総会・学術集会、金沢、2010.4.9.

須田俊一、落合博子、今野恵理、内川裕美子

男性両側腋窩副乳の一例

第 53 回日本形成外科学会総会・学術集会、金沢、2010.4.9.

水谷健人、須田俊一、八木直子、坂本好昭、今野恵理、内川裕美子、彦坂信、服部典子、落合博子
上顎癌術後の下眼瞼外反に対する耳介軟骨複合組織移植術の効果
第 21 回慶應義塾大学形成外科同門会学術集会、東京、2010.7.10.

須田俊一、内川裕美子、坂本好昭、八木直子、水谷健人、落合博子
乳房固定術を応用して異物除去術を行った一症例
第 21 回慶應義塾大学形成外科同門会学術集会、東京、2010.7.10.

落合博子、水谷健人、須田俊一、八木直子、坂本好昭、今野恵理、内川裕美子、彦坂信
上顎癌術後の下眼瞼外反に対する耳介軟骨複合組織移植術の効果
第 28 回日本頭蓋顎顔面外科学会学術集会、京都、2010.10.29.

藤井正人、徳丸 裕
シンポジウム 頭頸部がんにおける頸部郭清術の標準化を目指して
-化学放射線療法における頸部郭清術の役割
第 48 回 日本癌治療学会、京都、2010.10.28

馬場 優 徳丸 裕 藤井正人 小川 郁
イノシトール燐脂質合成阻害は頭頸部扁平上皮癌の malignant phenotype を防止する
第 34 回 日本頭頸部癌学会、東京都、2010.6.20

羽生 昇 徳丸 裕 藤井正人
頭頸部扁平上皮癌における SP 細胞の同定と機能の解明
第 34 回 日本頭頸部癌学会、東京都、2010.6.20

進藤彰人 羽生 昇 徳丸 裕 松永達雄 竹腰英樹 矢島陽子 藤井正人 加我君孝
舌癌術後に発症した複合性局所疼痛症候群の一例
第 72 回 耳鼻咽喉科臨床学会、倉敷市、2010.7.2

[講演]

藤井正人
頭頸部癌に対する化学放射線療法の現状と今後の展望
Meet the expert 2010、石川県金沢市、2010 年 1 月 20 日

藤井正人
頭頸部癌への化学放射線療法を受ける患者の看護-頭頸部腫瘍とその治療
がん放射線治療看護セミナー、東京都、2010.10.2

藤井正人
頭頸部がんにおけるヒト乳頭腫ウイルス感染
第 8 回 新潟頭頸部 DIF 研究会、新潟市、2010.10.16

松永達雄

小児難聴シンポジウム「言葉の発達が難しい小児難聴と向き合う」開催にあたって
小児難聴シンポジウム「言葉の発達が難しい小児難聴と向き合う」、東京都、2010年2月21日

松永達雄

小児難聴と Auditory Neuropathy の遺伝相談
小児難聴シンポジウム「言葉の発達が難しい小児難聴と向き合う」、東京都、2010年2月21日

務台英樹

聴覚発達とエピジェネティック制御
第5回感覚器シンポジウム、東京都、2010年3月11日

落合博子

創傷治療の最前線～組織欠損に対する形成外科的アプローチ～
第61回東京医療センター地域医療カンファレンス、東京、2010.12.16.

[その他]

藤井正人

化学・放射線療法2
第111回 日本耳鼻咽喉科学会総会 座長、仙台市、2010.5.20

藤井正人

がん化学療法に伴う悪心・嘔吐対策の新展開
第34回 日本頭頸部癌学会 座長、東京都、2010.6.10

藤井正人

咽喉頭
第62回 日本気管食道科学会総会 座長、別府市、2010.11.4

藤井正人

頭頸部・甲状腺 3
第48回 日本癌治療学会 座長、京都市、2010.10.29

人工臓器・機器開発研究部

人工臓器・機器開発研究部

[論文]

Tsunoda K, Sekimoto S, Tsunoda A.

Novel diagnostic device for oral and pharyngeal examinations of children: Folding-scope for the oral and pharyngeal cavities

BMJ Case Reports published online 22 July 2010, doi:10.1136/bcr.06.2008.0309

Kikuta S, Sato K, Kashiwadani H, Tsunoda K, Yamasoba T, Mori K.

From the Cover: Neurons in the anterior olfactory nucleus pars externa detect right or left localization of odor sources.

Proc Natl Acad Sci U S A. 2010;107(27):12363-8. (2010.6)

Sasaki T, Tsunoda K.

How I do it: chopsticks technique for hemostasis in tonsillectomy.

Eur Arch Otolaryngol 2010. Nov30, [Epub ahead of print]

Sasaki T, Xu A, Ito K, Ishimoto SI, Yamasoba T, Kaga K, Yamauchi N.

Histopathological differences in bony destruction of malleus and incus following mastoidectomy.

J Laryngol Otol. 124 :1162-6 (2010)

Sudo MM, Mochizuki AA, Itoh K, Kirino E

Interrelationships among physical performance, language proficiency and brain activities from the

viewpoint of social cognition

Clin Neurophysio 121(S1):210. 2010.1

角田晃一

【外来における内視鏡の使い方とそのコツ】 内視鏡記録への家庭用光学機器の応用 *JOHNS* 26(1) : 15-18. (2010.1)

角田晃一, 藤巻葉子, 関本荘太郎, 伊藤憲二, 牧山清, 山嵜達也

市販カメラを用いたハイスピード声帯撮影の音声情報同時記録の試み(会議録)
音声言語医学 51(1) : 66 (2010.1)

藤巻葉子, 角田晃一, 石本晋一, 宮島千枝, 関本荘太郎, 伊藤憲二, 牧山清, 山嵜達也

声帯評価における市販のハイスピードカメラの臨床応用(会議録)
日本耳鼻咽喉科学会会報 113(4) :312 (2010.4)

徳丸裕, 藤井正人, 羽生昇, 矢島陽子, 進藤彰人, 松崎佐栄子, 竹腰英樹, 松永達雄, 角田晃一, 加我君孝

頭頸部癌における p53 disruptive mutation の検出とその意義(会議録)
日本耳鼻咽喉科学会会報 113(4) :344 (2010.4)

角田篤信, 高橋直人, 喜多村健, 岸本誠司, 角田晃一
デジタル処理機能付き高解像度ビデオスコープの使用経験(会議録)
日本耳鼻咽喉科学会会報 113(4) :383 (2010.4)

角田晃一, 沼田勉, 橋本省, 黒田浩之, 中原はるか, 瀬成田雅光, 小室哲, 辻 純, 石井豊太, 緒方
憲久,
山本智矢, 内藤理恵, 石本晋一, 矢部多加夫, 佐々木徹, 近藤健二, 角田篤信, 増田佳奈子, 徳丸裕,
竹腰英樹
加齢による新しい脳梗塞危険因子、耳鼻咽喉科検診による内頸動脈走行異常と脳梗塞の関係の
班研究より(会議録)
日本耳鼻咽喉科学会会報 113(4) :400 (2010.4)

角田晃一
【喉頭瘢痕性病変へのアプローチ】治療への試み 声帯内側頭筋筋膜自家移植術の瘢痕病変とし
ての声帯溝症への応用と今必要な研究としての難病対策
厚生労働省声帯溝症班研究(解説/特集) 音声言語医学, 51(2) :183-186 (2010.4)

角田晃一
耳鼻咽喉科領域の新しい診療機器】ビデオ硬性挿管用喉頭鏡(解説/特集)
JOHNS, 26(6) :897-900 (2010.6)

徳丸裕, 藤井正人, 羽生昇, 矢島陽子, 進藤彰人, 松崎佐栄子, 松永達雄, 角田晃一, 加我君孝
頭頸部癌におけるハイリスク型 HPV 検出のためのブラッシング検査の有用性(会議録)
頭頸部癌 36(2) :205 (2010.5)

角田晃一
【声を取り巻く諸問題】声帯の硬化性病変に挑戦 加齢による声帯の生理的硬化性
日本医師会雑誌 139(4) :826 (2010.7)

角田晃一, 藤巻葉子
加齢による声門閉鎖不全に対する音声自己訓練法による介入(会議録)
日本気管食道科学会会報, 61(4) :408 (2010.8)

角田晃一
手術手技 私が愛用する手術器具 上向き横開き鉗子(解説)
JOHNS 26(9) :1589-1591 (2010.9)

石本晋一, 角田晃一, 藤巻葉子
ハイスピードムービー撮影による鼓膜の観察(会議録)

Otology Japan 20(4) :663 (2010.9)

佐藤剛史, 浅香明日美, 早乙女泰伴, 衛藤あや, 大塚満美子, 宮本真, 森有子, 熊田政信, 新美成二,

福田宏之

Tongue thrust (舌突出症) の一例 (会議録/症例報告)

音声言語医学 51(1) :71-72 (2010.01)

渡邊雄介, 平松宏之, 相川倫, 石川伸幸, 西居倫子, 駒澤大吾, 許斐氏元, 熊田政信, 山口寛幾
首を左右に振ることにより音声変化が出る 1 症例 (会議録/症例報告)

音声言語医学 51(1) :87 (2010.01)

熊田政信, 衛藤あや, 大塚満美子

音声障害 機序 保存的治療 外科的治療 発声障害の保存的治療 特に痙攣性発声障害について (解説)

日本気管食道科学会会報, 61(2) :171-174 (2010.04)

福田宏之, 梅崎俊郎, 久育男, 新美成二, 熊田政信

【声を取り巻く諸問題】 (座談会/特集)

日本医師会雑誌 139(4) :789-801 (2010.07)

西山耕一郎, 永井浩巳, 臼井大祐, 栗原里佳, 八尾和雄, 廣瀬肇

耳鼻咽喉科外来における嚥下障害スクリーニング項目の検討.

日本耳鼻咽喉科学会会報, 113 : 542-548, 2010.

西山耕一郎, 永井浩巳, 臼井大祐, 栗原里佳, 八尾和雄, 廣瀬肇

嚥下障害に対する外来での対応法の試み.

日本耳鼻咽喉科学会会報, 113 : 587-592, 2010.

戎本浩史, 西山耕一郎, 杉本良介, 厚見拓, 山本光, 大上研二, 飯田政弘

バルーン法が有効であった嚥下障害の 2 症例.

日気食会報, 61(4) : 395-401, 2010.

西山耕一郎

耳鼻咽喉科医と嚥下障害の現状.

横浜市耳鼻咽喉科医会会報第 29 号 : 17-19, 2010

菊田周, 柏谷英樹, 角田晃一, 山嵜達也, 森憲作

ラット嗅皮質ニューロンの応答特性に基づいた細胞形態の観察 (会議録)

日本鼻科学会誌 49(3) :431 (2010.7)

[総説]

佐々木徹,

耳に関する診療依頼,

ER マガジン 7 巻 4 号 616-623 シービーアール

[著書]

加納 滋

内視鏡検査時のモニターと画像記録法,

JOHNS 東京医学社 (2010. 1. 1)

[学会発表]

角田晃一, 藤巻葉子

加齢による声門閉鎖不全に対する音声自己訓練法による介入

第 31 回東日本音声外科研究会 東京 2010. 4. 10

角田晃一,

加齢による声門閉鎖不全に対する自己音声訓練法,

平成 22 年度 耳鼻咽喉科夏期症例検討会 東京, 2010. 7. 17

角田晃一,

加齢による声門閉鎖不全に対する音声自己訓練体操による介入,

第 55 回日本音声言語医学会総会・学術講演会 東京, 2010. 10. 14

角田晃一, (座長)

第 64 回国立病院総合医学会 福岡国際会議場 福岡サンパレスホテル 2010. 11. 26-27

関本荘太郎

骨導伝達関数の検討

日本音響学会春季研究発表会 東京都調布市 2010. 3. 10

石本晋一, 藤巻葉子, 岡田和也, 角田晃一

ハイスピードムービー撮影による鼓膜の観察

日本耳科学会 愛媛・松山 2010. 10. 7-10. 9

石本晋一, 藤巻葉子, 岡田和也

突発性難聴難治例に対する鼓室内 ステロイド注入療法の試み

新宿区城西研究会 新宿 2010. 7. 23

石本晋一, 藤巻葉子, 岡田和也

高齢者の良聴耳への軟骨を用いた 鼓膜形成術
東大冬季研究会 東京 2010.12.17

内藤理恵, 藤本千里, 菅澤恵子
パーキンソン症候群の鑑別診断における神経耳科学的所見の有用性
京都 2010.11.17-19

内藤理恵, 内藤玲, 横西久幸
喉頭気管分離・気管食道吻合術後の声帯発声について
第55回日本音声言語医学会総会 東京, 2010.10.14-15

佐々木徹, 角田晃一
CTにて咽後膿瘍類似の所見を呈した川崎病の1例
喉頭科学会 下関 2010.3.4-5

Toru Sasaki, Koichi Tsunoda, Yukio Taniguchi
A diagnostic device for oral and pharyngeal examinations of children -Holding Scope for the Oral and Pharyngeal Cavities
The 3rd Congress of the European Academy of Paediatric Societies Copenhagen, Denmark
2010.10.23-26

藤巻葉子, 石本晋一, 角田晃一
声帯溝症 疫学・診断・治療の実態調査患者アンケートの集計
第22回日本喉頭科学会・学術講演会 山口県下関市 2010.3.4-5

藤巻葉子, 角田晃一, 山嵜達也, 田山二郎, 牧山清, 室伏利久, 角田篤信, 新美成二, 徳丸裕, 石本晋一, 内藤理恵, 佐々木徹, 加納慈, 大島清, 熊田政信, 西山耕一郎, 三枝英人, 二藤隆春, 得丸貴史, 高橋直人, 平井良治, 三枝華子, 熊谷譲, 後藤多嘉緒.
声帯溝症の疫学・診断・治療の実態調査,
第22回日本喉頭科学会, 下関 2010.3.4-5

藤巻葉子, 宮島千枝, 石本晋一, 角田晃一, 関本荘太郎, 伊藤憲治, 角田篤信, 牧山清, 山嵜 達也
声帯評価における市販のハイスピードカメラの臨床応用
第111回日本耳鼻咽喉科学会 宮城県仙台市 2010.5.20-22

藤巻葉子, 石本晋一, 角田晃一, 山嵜達也, 二藤隆春, 田山二郎, 熊谷譲, 後藤多嘉緒, 牧山清, 室伏利久, 三枝華子, 角田篤信, 得丸貴史, 高橋直人, 新美成二, 三枝英人, 徳丸 裕, 内藤理恵, 佐々木徹, 加納 滋, 大島清史, 熊田政信, 西山 耕一郎
声帯溝症 疫学・診断・治療の実態調査 病院集計 東京(千代田) 2010.10.14-15

伊藤憲治, 板垣文彦, 関本荘太郎, 野澤真一, 丹羽真一

聴覚空間情報の高次認知過程に対する効果-ワーキングメモリに基づく脳機能解析-
2010年電子情報通信学会総合大会 仙台 2010/3/16 ~3/19

板垣文彦, 伊藤憲治, 三浦祥恵

外国語習得の基礎過程
2010年電子情報通信学会総合大会 仙台 2010.3.16 ~3/19

亀田弘之, 伊藤憲治, 池淵恵美, DYCSS3グループ (他4名)

認知リハビリテーションのためのゲーム集試作プロジェクト
2010年第1回電子情報通信学会思考と言語研究会 東京 2010.5.28

Sudo MM, Mochizuki AA, Itoh K, Kirino E

Interrelationships among physical performance, language proficiency and brainactivities
from the
viewpoint of social cognition Clin Neurophysiol
29th International Congress of Clinical Neurophysiology 神戸 2010.10.28~11.1

加納滋

ソフトなソフトウェア (画面構成) に関して
第26回耳鼻咽喉科情報処理研究会 玉造温泉, 島根県, 2010.2.27-28

加納滋, 川崎広時

ユーザ視点から考えた患者情報管理システム (いわゆる電子カルテ)
第111回日本耳鼻咽喉科学会総会 仙台、宮城県 2010.5.20-21

生井友紀子, 森信智子, 佃守, 田口淳秀, 西山耕一郎, 廣瀬肇

術後に音声症状の改善のみられなかった症例への対応について—言語聴覚士の立場から—
第31回東日本音声外科研究会, 東京 2010.4

西山耕一郎, 永井浩巳, 臼井大祐, 栗原里佳, 八尾和雄, 廣瀬肇

嚥下障害のスクリーニング項目の検討.
第111回日本耳鼻咽喉科学会, 仙台. 2010.5

大田隆之, 西山耕一郎, 三好豊, 呉晃一, 内藤聡, 松井和夫.

当院における嚥下外来の現状.
第111回日本耳鼻咽喉科学会, 仙台 2010.5

樋口恵美子, 廣瀬裕介, 香中伸一郎, 西山耕一郎.

当院回復期リハビリ棟における间歇食道栄養法の取り組み~効果と課題を振り返る~.
横浜. 第10回嚥下研究会, 2010.6

粉川将治、河合敏、中崎浩一、岩崎克夫、平野克典、西山耕一郎.
認知症をもつ摂食・嚥下障害患者の診断・評価について.
第10回嚥下研究会, 横浜 2010.6

戎本浩二、杉本良介、西山耕一郎、大上研二、飯田政弘、棚橋汀路.
喉頭蓋が無い舌根・声門上部癌術後の嚥下機能改善手術症例.
第10回嚥下研究会, 横浜 2010.6

大田隆之、西山耕一郎、三好豊、呉晃一、内藤聡、松井和雄、太田誠志.
当院におけるNSTに対応した嚥下外来の現状.
第10回嚥下研究会, 横浜. 2010.6

西山耕一郎、河合敏、廣瀬裕介、粉川将二、大田隆之.
高齢者における嚥下障害スクリーニングと対応策の試み.
第22回日本嚥下障害臨床研究会, 福井 2010.7

粉川将治、河合敏、中崎洪二、岩崎克夫、平野克典、西山耕一郎.
認知症をもつ摂食・嚥下障害患者の診断・評価について.
第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟 2010.9

西山耕一郎、河合敏、廣瀬裕介、粉川将治、大田隆之、田口享秀、花山耕三、大上研二、飯田政弘、
佃守.
高齢者における嚥下障害スクリーニングと原因分類.
第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟, 2010.9

西山耕一郎、河合敏、廣瀬裕介、粉川将治、大田隆之、田口享秀、花山耕三、大上研二、飯田政弘、
佃守.
高齢者における嚥下障害への対応法の試み.
第16回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会, 新潟 2010.9

榎大輔、西山耕一郎、杉本良介、大田隆之、戎本浩史、大上研二、松井和夫、飯田政弘.
食道入口部が持続的に開大していた3症例.
日本耳鼻咽喉科学会神奈川県地方部会第153回耳鼻咽喉科・頭頸部外科学術講演会. 横浜. 2010.9

西山耕一郎、永井浩巳、大上研二、八尾和雄、飯田政弘、佃守 廣瀬肇.
高齢者施設における嚥下内視鏡検査の検討.
第23回日本口腔咽頭科学会, 新宿 2010.9

大上研二、戎本浩二、杉本良介、酒井昭博、西山耕一郎、飯田政弘.
中咽頭癌術後の音声・嚥下機能の温存・再建について.
第3回喉頭機能温存治療研究会, 品川. 2010.9

西山耕一郎

嚥下障害に対する対応・喉頭疾患の外来手術.

第 35 回臨床科フォーラム, 品川 2010. 9

藤巻葉子、角田晃一、山嵜達也、田山二郎、牧山清、室伏利久、角田篤信、新美成二、徳丸裕、石本普一、内藤理恵、佐々木徹、加納慈、大島清、熊田政信、西山耕一郎、三枝英人、二藤隆春、得丸貴史、高橋直人、平井良治、三枝華子、熊谷譲、後藤多嘉緒.

声帯溝症の疫学・診断・治療の実態調査,

第 35 回日本音声言語医学会, 東京. 2010. 10

杉本良介、大上研二、西山耕一郎、戎本浩史、酒井昭博、槇大輔、飯田政弘、棚橋汀路.

喉頭蓋切除例に対する嚥下改善手術.

第 62 回日本気管食道科学会, 別府 2010. 11

槇大輔、西山耕一郎、杉本良介、大田隆之、戎本浩史、大上研二、松井和夫、飯田政弘.

食道入口部が持続的に開大していた 3 症例.

第 62 回日本気管食道科学会, 別府 2010. 11

永井浩巳、西山耕一郎、清野由輩、木村祐、田畑泰彦、岡本牧人

声帯麻痺に対する basic-FGF を徐法させた自家筋膜移植術—basic-FCF の投与量について—.

第 62 回日本気管食道科学会, 別府 2010. 11

Taguti, T, Koichiro Nishiyama, Hirose, H., Mamoru, T., :

Autologous transplantation of the temporal fascia and injection of platelet-rich plasma into the vocal cord

for unilateral vocal cord paralysis and vocal cord sulcus.

The 7th East Asian Conference on Phonosurgery (7EACP), 2010, 11. Tokyo, Japan.

菊田 周、柏谷英樹、角田晃一、山嵜達也、森 憲作

脳の内部状態に依存しないラット嗅皮質ニューロン

日本耳鼻咽喉科学会総会 仙台 2010. 5. 20-22

菊田 周、柏谷英樹、角田晃一、山嵜達也、森 憲作

ラット嗅皮質ニューロンの応答特性に基づいた細胞形態の観察

日本鼻科学会 札幌 2010. 8. 26-28

Tsutomu Nomura, Yoshimi Makizumi, Tsuyoshi Yoshida, Tatsuya Yamasoba

The relation between the efficacy of tonsillectomy and renal pathology in the patients with IgA nephropathy.

The 7th International Symposium on Tonsils and Mucosal Barriers of the Upper Airways (ISTMB)
Asahikawa, Japan. 2010, Jul. 7-9

野村 務, 二藤隆春, 溜箭紀子, 山岨達也,

喉頭気管分離術後に“むせ”によるのみこみにくさを訴えた ALS の一例

日本耳鼻咽喉科学会東京都地方部会例会 第 187 回学術講演会. 東京 2010. 3. 13

[特別講演]

角田晃一,

Fascia implant for sulcus

Phonosurger symposium in Kyoto 京都 2010. 9. 11

角田晃一,

声門閉鎖不全に伴う問題点と経済的対策、

第 55 回日本音 声言語医学会総会・学術講演会 東京, 2010. 10. 14

石本晋一

口腔水分計：口腔乾燥症の客観的な医療機器 岐阜医師会 岐阜 2010. 10. 17

西山耕一郎

耳鼻咽喉科外来における嚥下障害の対応、

神奈川県地方部会学術集会. 横浜 2010. 1. 7.

西山耕一郎

明日からできる嚥下障害診療、

平塚市医師会学術講演会. 平塚 2010. 1. 30

西山耕一郎

明日からできる嚥下障害診療、

横浜市南区薬剤師会学術講演会. 横浜 2010. 2. 16

仁保達夫、田口淳秀、佃守、杉崎聡子、柴田邦彦、西山耕一郎、堀口利之、廣瀬肇

当科で行っている声帯内自家側頭筋膜移植術、

第 22 回日本喉頭科学会, 下関. 2010, 3

西山耕一郎

嚥下障害の診断と対処法の試み、

熊本嚥下研究会講演会. 熊本 2010. 3. 10

西山耕一郎

耳鼻咽喉科一般外来における嚥下障害の対応、

第 8 回日耳鼻嚥下講習会. 東京 2010. 4. 4

西山耕一郎

耳鼻咽喉科と嚥下障害.

平成 22 年度相耳会総会記念講演会. 東京 2010. 4. 11

西山耕一郎

嚥下障害の基礎と臨床.

第 22 回ミニネット～横浜市大神経内科 & 金沢・磯子区在宅・訪問診療関連～講演会. 横浜.
2010. 4. 27

西山耕一郎

嚥下障害の基礎と臨床.

平成 22 年度横浜市サクラクリニック懇親会. 横浜 2010. 6. 18

西山耕一郎 :

日帰り手術の実際、咽頭・喉頭疾患.

第 7 回耳鼻咽喉科短期滞在手術手技研究会. 大阪 2010. 6. 20

西山耕一郎

嚥下障害に対する耳鼻科医の対応法.

藤沢市耳鼻科医会講演会. 藤沢 2010. 7. 1

西山耕一郎

嚥下障害に対する耳鼻科医の対応法.

日本耳鼻咽喉科学会川崎医会学術集会. 川崎. 2010. 10. 16

西山耕一郎

嚥下障害による誤嚥性肺炎症例.

第 3 回横浜市南区呼吸器疾患勉強会. 横浜 2010. 10. 29

西山耕一郎

外来における嚥下障害の対応法の試み.

神奈川県嚥下性肺炎研究会. 横浜 2010. 11. 2

西山耕一郎 :

声帯麻痺に対する治療の最前線. 声帯内自家筋膜移植術.

日本気管食道科学会. 大分 2010. 11. 5

西山耕一郎

嚥下障害に対する耳鼻科医の対応法.

近畿医科大学同窓会今更会学術講演会. 大阪難波 2010. 11. 6

西山耕一郎

嚥下障害の基礎と臨床－VF と VE による観察－.

横浜南地区嚥下講習会. 横浜 2010. 11. 7

西山耕一郎

嚥下障害の基礎と臨床.

横浜市南区三師会. 横浜 2010. 11. 26

[その他]

角田晃一

TV 出演

テレビ朝日「スーパーモーニング」スパモニ家庭の医学 2010. 1. 14

新聞掲載

朝日新聞 朝刊7月27日号【探究人】“衰えた声帯の治療法を探る”人物紹介

朝日新聞 夕刊9月27日号【体とこころの通信簿】“声出して声帯鍛えて”

加納 滋

喉頭の機能と生理, 金沢医科大学にて学生の講義 金沢医科大学、石川県、2010. 1. 21

菊田 周

新聞掲載

朝日新聞 朝刊6月11日号 科学面 “匂いの方向を知る神経メカニズムの解明” として紹介

分子細胞生物学研究部

分子細胞生物学研究部

[論文]

Fujikawa K, Iwata T, Inoue K, Akahori M, Kadotani H, Fukaya M, Watanabe M, Chang Q, Barnett EM, and Swat W.

Vav2 and Vav3 as candidate disease gene for spontaneous glaucoma in mice and human.
PLOS One 5(2) : e9050, 4-Feb

Fujinami K, Akahori M, Fukui M, Tsunoda K, Iwata T, and Miyake Y

Stargardt disease with preserved central vision: identification of a putative novel mutation in ATP-binding cassette transporter gene. Acta Ophthalmologica
Acta Ophthalmologica 2010 88 : 1-2, 16-Feb

Okamoto H, Umeda S, Nozawa T, Suzuki MT, Yoshikawa Y, Matsuura ET, and Iwata T

Comparative proteomic analyses of macular versus peripheral retina in Cynomolgus monkeys (*Macaca fascicularis*).
Experimental Animal 59(2) : 171-178, 19-May

Chi Z, Akahori A, Obazawa M, Minami M, Noda T, Nakaya N, Tomarev S, Kawase K, Yamamoto T, Noda S, Sasaoka M, Shimazaki A, Takada Y, and Iwata T.

Overexpression of optineurin E50K disrupts Rab8 interaction and leads to a progressive retinal degeneration in mice.
Human Molecular Genetics 19(13) : 2606-2615, 13-Apr

Chi Z, Yasumoto F, Sergeev Y, Minami M, Obazawa M, Kimura I, Takada Y, and Iwata T

Mutant WDR36 directly affects axon growth of retinal ganglion cells leading to progressive retinal degeneration in mice.
Human Molecular Genetics 19(19) : 3806-3815, 6-Aug

Akahori M, Tsunoda K, Miyake Y, Fukuda Y, Ishiura H, Tsuji S, Hatase T, Nakamura M, Ohde H, Itabashi T, Okamoto H, Takada Y, and Iwata T.

Dominant mutations in RP1L1 gene are responsible for occult macular dystrophy.
The American Journal of Human Genetics 87(3) : 424-429, 10-Sep

Shen X, Ying H, Qiu Y, Park J-S, Shyam R, Chi Z-L, Iwata T, Yue BYJT.

Processing of optineurin in neuronal cells. The Journal of Biological Chemistry
J Biol Chem in press, online 8-Nov

[著書]

Chi Z, Yoshida T, Lambris JD, and Iwata T

Suppression of drusen formation by compstatin, a peptide inhibitor of complement C3

activation, on Cynomolgus monkey with early-onset macular degeneration.

Inflammation and retinal disease: complement biology and pathology

(John D.Lambris Anthony P. Adamis), 127-135, Springer, 30-Nov

[国内学会]

赤堀正和

加齢黄斑変性症および ポリープ状脈絡膜血管症 における全ゲノム関連解析
感覚器シンポジウム、東京、3月11日

岩田岳

黄斑変性と黄斑ジスロトフィーの基礎研究

第49回日本網膜硝子体学会（特別講演）、大阪、11月27日

池 在龍、赤堀正和、安本史恵、Yuri Segreev、皆見政好、尾羽澤実、野田徹、Naoki Nakaya、
Stanislav Tomarev、川瀬和秀、山本哲也、野田節子、笹岡正顕、島崎敦、木村至、高田雄一郎、
岩田 岳

緑内障遺伝子 OPTN、WDR36 トランスジェニックマウスの作製とその解析

3rd Retina Research Meeting、東京、12月4日

赤堀正和

オカルト黄斑変性症原因遺伝子の解明

3rd Retina Research Meeting、東京、12月4日

[国際学会]

I.Kimura, H.Okamoto,Z.-L.Chi,M.Akahori,M.T.Suzuki,T.Iwata

Analysis of Colocalization of Rab8 and ERM Family in the Ocular Body.

ARVO2010ANNUALMEETING, FortLauderdale, 4-May

T. Iwata, Z.-L. Chi, M. Akahori, Y. Takada, N. Nakaya, S. Tomarev, Y. Sergeev

CHARACTERIZATION OF GLIA CELLS IN OPTN AND WDR36 TRANSGENIC MICE

19th International Congress for Eye Research. Montreal, 20-Jul

H. Okamoto, Z.-L. Chi, M. Minami, N. Terauchi, Y. Haruhata, M. Obazawa, T. Noda, M. Honda, A.Mizota, M.

Tanaka, K. Matsuno, K. Tanahashi, J. Utsumi, T. Iwata

ENRICHMENT AND ISOLATION OF LOW MOLECULAR WEIGHT PROTEIN IN PLASMA
FROM PATIENTS WITH OCULAR DISEASES USING A PROTEIN SEPARATOR

19th International Congress for Eye Research. Montreal, 20-Jul

Chi ZL, T. Toshida, K. Fujinami, Y. Miyake, A. Mizota, M. Suzuki, K. Terao, Y. Yoshikawa,

J.D.Lambris, P. Olson, T. Iwata

SUPPRESSION OF DRUSEN FORMATION BY COMPSTATIN (POT-4), A PEPTIDE

INHIBITOR OF C3 ACTIVATION, ON CYNOMOLGUS MONKEY WITH EARLY-ONSET
MACULAR DEGENERATION

19th International Congress for Eye Research. Montreal, 19-Jul

Chi ZL, Akahori M, Obazawa M, Minami M, Noda T, Nakaya N, Tomarev S, Kawase K, Yamamoto T, Noda S,
Sasaoka M, Shimazaki A, Sergeev Y, Takada Y, Iwata T.

Overexpression of mutant OPTN and WDR36 leads to a progressive retinal degeneration in mice.

50th American Society for Cell Biology. Philadelphia, 11-15Dec

[講演]

赤堀正和、山城健児、森圭介、本田茂

(インストラクションコース) 近未来の加齢黄斑変性治療を理解するために必要なゲノム学概説
臨床眼科学会、神戸、2010年11月13日

報道

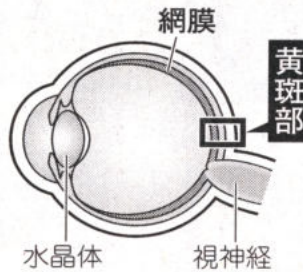
2010年9月10日(金) 中日新聞 朝刊 総合欄

3 総合 12版 2010年(平成22年)9月10日(金曜日)

視力低下を招く 原因遺伝子特定

視力の低下や中心部が見えにくくなる遺伝病「オカルト黄斑ジストロフィー」の原因となる遺伝子を、愛知医科大学の三宅養三理事長らのグループが突き止めた。米科学誌アメリカン・ジャーナル・オブ・ヒューマン・ジェネティクス(電子版)に九日、発表した。オカルトは、遺伝性黄斑変性症の一種で現在、治療法はない。研究成果が将来、治療法の開発につながる可能性がある。三宅理事長によると、通常の遺伝性黄斑変性症

愛知医科大グループ



は網膜にある黄斑部に異常が起きる。一方、オカルトは黄斑部が一見すると正常に見えるため、視神経疾患や弱視と誤診される例が大半だった。

治療法開発に弾み

オカルトは一九八九年、三宅理事長が名古屋大医学部の助教時代に見つかった。黄斑部の異常が観察できないのに病気が発生する奇妙な現象との意味で名付けた。診断が難しく正確な発症数は不明だが、他の遺伝性黄斑変性症よりも多いとみられる。東京医療センター視覚生理学研究室の角田和繁室長らがオカルト発症者が多数いる家系を見つけ、同センター分子細胞生物学研究部の岩田岳部長や東京大医学部の辻省次教授らが遺伝子を解析。視細胞に深く関係する遺伝子「RPL11」が正常でないことが判明した。三宅理事長は「感覚器の遺伝性疾患を日本人が発見する例は少ないうえ、原因遺伝子の特定まですべてを日本の研究グループが手がけた。史上初めての研究例」と話している。

黄斑症の遺伝子解明

網膜の中心にある黄斑の機能が衰え、視力が低下する遺伝性の目の病気「オカルト黄斑ジストロフィー」の原因遺伝子を国立東京医療センターと東京大学の共同研究チームが解明した。発症原因は不明で、国内の患者数も分かっておらず、今後、治療法の研究や病気の実態解明が進むことが期待される。

この病気は、1989年に三宅養三・名古屋大名誉教授（現愛知医大理事長）が発見。弱視や心因性の視力障害と誤診されることもあり、根本的な治療法もなかった。

チームは、病気が遺伝している四つの家系の患者・家族の遺伝子を解析し、原因遺伝子がある領域を特定。128の遺伝

子から「RP1L1」と呼ばれる遺伝子に変異があることを見つけた。

（ヒューマン・ジェネティクス）

[PR] 酒巻教授による医療人インタビュー動画「患者中心の医療を学ぶ」

「オカルト黄斑ジストロフィー」の記事をお探しですか？関連する記事は[こちら](#)にあります。

オカルト黄斑ジストロフィーの原因遺伝子を解明

国立病院機構東京医療センター感覚器センターと東大医学部神経内科の共同研究チームは9月9日、両眼の視力が徐々に低下するオカルト（目に見えない）黄斑ジストロフィーの原因となる遺伝子を解明したと発表した。

共同研究チームは、この病気に罹患している家系を国内で確認し、その家族からDNAを採取。この家系の中で、病にかかっている人とかかっていない人のDNAを比較した。そこから、この病気に関与している遺伝子の染色体の位置を推定し、その領域内にある遺伝子の中から原因遺伝子を特定することに成功した。

同センターの角田和繁氏は記者会見で、「今回、原因遺伝子を特定することができたが、それがすぐ...



HOME > プレス発表 > オカルト黄斑ジストロフィーの原因遺伝子を解明

前のページへ戻る

プレス発表

オカルト黄斑ジストロフィーの原因遺伝子を解明

研究 2010年09月10日

－眼科・耳鼻科領域における感覚器疾患の原因遺伝子が国内チームのみによって解明されたのは今回が初めて－

家族性黄斑症の一種であるオカルト黄斑ジストロフィー(Occult Macular Dystrophy)の原因遺伝子が、東京医療センター感覚器センター（東京都目黒区）と東京大学医学部神経内科との共同研究チームによって解明されました。この研究成果は米国の遺伝学雑誌「The American Journal of Human Genetics (http://www.cell.com/AJHG/home)」オンライン版にて、2010年9月9日付（米国時間）で発表されました。

※ 詳細は下記のURLをご覧ください。

- 独立行政法人国立病院機構 東京医療センター 臨床研究センター（感覚器センター）
(http://www.kankakuki.go.jp/information11.html)

このサイトについて | プライバシーポリシー | 投書箱 | リンク |

このページのトップへ

病気や健康法に関するご質問などに電子メールやお電話でお答えすることはできません。その場合には、正式な受診手続きをお願いいたします。

東京大学医学部附属病院 〒113-8655 東京都文京区本郷7-3-1 電話03-3815-5411（代表）

Copyright (C) 2010 The University of Tokyo Hospital. All Rights Reserved.

トピックス

遺伝性黄斑症の原因遺伝子を解明

東京医療センター 管理課長 萩原 隆

眼科・耳鼻科領域における感覚器疾患の原因遺伝子が、
国内チームのみによって解明されたのは今回が初!!

① 要約

今から20年前に日本人眼科医によって発見された遺伝性黄斑症の一種であるオカルト黄斑ジストロフィー (Occult Macular Dystrophy) の原因遺伝子が、東京医療センター感覚器センターと東京大学医学部神経内科との共同研究チームによって解明されました。



分子細胞生物学研究部長
岩田 岳



視覚生理学研究室長
角田 和繁



分子細胞生物学研究員
赤堀 正和

オカルト黄斑ジストロフィーは網膜中心部(黄斑部)の機能が徐々に傷害され両眼の視力が低下する疾患で、これまでその発症原因は解明されておらず治療法もありません。今回の発見により、本疾患の治療法の開発に向けた研究が加速するものと期待されます。この研究成果の詳細は米国の遺伝学雑誌「The American Journal of Human Genetics (<http://www.cell.com/AJHG>)」に、2010年9月9日付(米国東部時間)オンライン版にて一般公開されます。

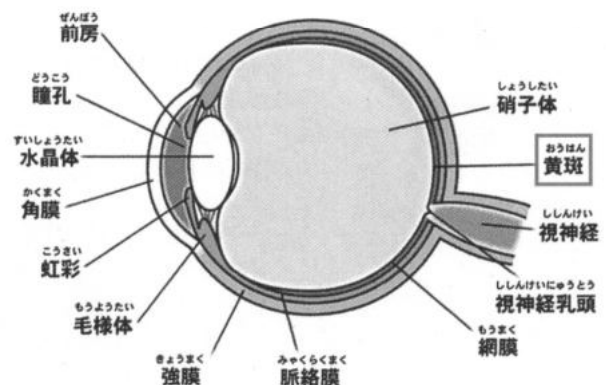
② 研究の背景

オカルト黄斑ジストロフィーは1989年に眼科医三宅養三(元感覚器センター長。現、愛知医大理事長)

によって発見された遺伝性の網膜疾患です。黄斑部の機能が徐々に傷害され両眼の視力が低下する疾患ですが、これまで原因が分かっておらず治療法もありません。また本疾患は他の遺伝性黄斑症と異なり黄斑部が全く正常に見えるため、その診断には黄斑部局所網膜電図という特殊な装置が必要であり、視神経疾患、弱視など他の眼疾患と誤診されるケース

が数多くありました。正確な患者数は不明ですが、他の遺伝性黄斑症と比べて頻度は高いと考えられます。東京医療センター分子細胞生物学研究部(岩田 岳部長)および視覚生理学研究室(角田 和繁室長)の研究チームは、東京大学医学部神経内科(辻

省次教授)と共同で、国内における患者家族の疾患調査および遺伝子検査を行い、疾患原因の解明に向けた研究を行って参りました。



③ 研究の内容

本研究では辻教授によって開発されたSNP HiTLink法を用いて、これまで困難であった少数で構成される患者家系において、原因遺伝子の染色体上での位置を決定することに成功しました。この解析法によってオカルト黄斑ジストロフィーの原因遺伝子は染色体8番短腕（下図）にあることが明らかになり、その領域に存在する128遺伝子の中からRP1L1遺伝子にR45WとW960Rのアミノ酸置換を発見しました。RP1L1遺伝子は網膜の視細胞（錐体細胞と桿体細胞）に発現するタンパク質で、網膜色素変性の原因遺伝子であるRP1とアミノ酸配列の相同性があります。これまでの研究から、2つのタンパク質は相互作用しながら視細胞の構造や細胞内輸送に関与していると考えられます。黄斑における視細胞の構造は周辺網膜とは異なり、細長く、密に存在しており、オカルト黄斑ジストロフィーの患者では細胞の構造に異常があるとの報告もあります。黄斑は視力を決定する重要な部位であり、高い視力を獲得した霊長類や一部の鳥類にしか存在しません。RP1L1の機能が明らかにされるこ



とにより、網膜での黄斑部の機能と疾患との関係が明らかになると考えられます。

④ 発見の意義

日本人が発見した遺伝性感覚器疾患は非常に少なく、その疾患の原因遺伝子を日本研究グループのみによって同定した例はありません。発症原因の解明されている一部の遺伝性網膜疾患については、海外を中心にすでに遺伝子治療が行われ始めています。今回本疾患の原因遺伝子が確定したことにより、今後、治療法の開発に向けた研究が加速するものと期待されます。また、通常の検査では診断が難しい本疾患を正確に診断するため、今回の遺伝子情報が役立つものと思われます。



厚生労働省で行われた記者会見の様子



<主催シンポジウムなど>

<主催シンポジウム>

* 第5回 感覚器シンポジウム 平成22年3月11日(木)

主題 ダーウィン生誕200年記念“感覚研究のフロンティア”

I 特別講演

特別講演①

政井一郎／沖縄科学技術研究基盤整備機構 大学院大学先行研究プロジェクト
神経発生ユニット 代表研究者

「ゼブラフィッシュを用いた網膜神経発生のメカニズムの解明」

特別講演②

古川貴久／大阪バイオサイエンス研究所 第4研究部(発生生物学部門) 研究部長

「網膜の発生と機能の分子機構 ～遺伝情報による神経回路の作られ方～」

特別講演③

伊藤 啓／東京大学 分子細胞生物学研究所 高次構造研究分野 准教授

「遺伝子発現誘導系を駆使した感覚神経系のシステムバイオロジー」

特別講演④

渡邊 大／京都大学大学院 生命科学研究科高次脳機能学分野

医学研究科生体情報科学講座 教授

「音声シーケンス認識・制御の中樞神経機構」

II 感覚器センターの研究から

1. 視覚研究

①高田雄一郎／NISO 分子細胞生物学研究部 研究員

「若年性網膜分離症マウスモデルの病態と遺伝子治療」

②赤堀正和／NISO 分子細胞生物学研究部 研究員

「加齢黄斑変性症およびポリープ状脈絡膜血管症における全ゲノム関連解析」

2. 聴覚研究

①務台英樹／NISO 聴覚・平衡覚研究部 聴覚障害研究室 研究員

「聴覚発達とエピジェネティック制御」

②加我君孝／NISO 感覚器センター センター長

「ダーウィンのヒトの耳についての考察および中耳・内耳の発生と進化」